

令和6年度

新時代に対応した高等学校改革推進事業
(普通科改革支援事業)

研究実施報告書



北九州市立高等学校
北九州市教育委員会

【表紙画像：令和7年度コンセプト・ブックより（部分）】

目 次

1 研究概要

- (1) 北九州市立高等学校の魅力化・特色化の目的 1
- (2) 新学科の目標

参考 スクール・ミッション、スクール・ポリシー 2

2 令和6年度事業の取組

(1) カリキュラムの検討

- ア 「カリキュラム検討委員会」の体制 3
- イ カリキュラムの試行実施・改善
- ウ 「イチプロ」に係る単位数の検討 4
- エ コーディネーター及び外部有識者等との連携強化 5
- オ 大学生の企画・立案による学び創り
- カ 先進事例の視察とその活用 6
- キ 探究的な学びづくりのための教職員の実践

(2) 高校入試改革

- ア 令和7年度入学者選抜（令和6年度入学者選抜からの更なる改革）
 - (ア) 特色ある「特色化選抜」の実施 7
 - (イ) 入試改革の過程で得られたこと（志願者数の変化など） 11

(3) 学科再々編

- ア 情報ビジネス科の募集停止（未来共創科への再編） 12
- イ 未来共創科の3本柱
（データ・サイエンス教育 / アントレプレナーシップ教育 / グローバル教育）

(4) 広報の充実

- ア コンセプト・ブック 13
- イ 生徒企画のプロモーション・ビデオ 15
- ウ 保護者説明会、中学生見学会 17
- エ 特色化選抜体験会「Trial Session」 18

(5) 関係機関との連携・協働体制の維持・構築

- ア 市高魅力化コンソーシアム 19
- イ 北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会 20
- ウ 大学・企業等との連携・協働体制 21

(6) アウトプットの場づくり	
ア インタビューシップ発表会 in 小倉	22
イ 他校とのコラボ企画（おにぎりプロジェクト）	23
ウ 地元のサッカークラブチーム×行政×企業の連携によるデータ分析ワーク	25
エ 北九大×こども図書館の連携によるトークイベントへの参加	26
オ 「こども図書館魅力発見クイズラリー」のイベント企画及び運営	27

(7) 客観的評価指標「高校魅力化評価システム」の結果と課題	29
--------------------------------	----

3 令和7年度以降の展望

(1) 「市高魅力化コンソーシアム」の継続設置	32
(2) コミュニティ・スクールの導入	
(3) 未来を担うデジタル人材の育成（BYODの導入）	

●参考資料●

参考資料1	令和6年度 市高魅力化コンソーシアム 議事概要	34
参考資料2	令和6年度 北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会 議事概要 (コンソーシアムとの合同会議分も含む。)	42
参考資料3	高校魅力化評価システム（北九州市立高等学校：令和6年度）	48

1 研究概要

（１）北九州市立高等学校の魅力化・特色化の目的

本市では、産業構造や若年人口減などの社会情勢の変化などを踏まえ、令和元年度に有識者会議「北九州市後期中等教育に関する検討会議」を立ち上げ、北九州市立高等学校及び戸畑高等専修学校の在り方について協議を重ねてきた。

北九州市教育委員会では、令和３年に、検討会議での意見などを踏まえ、北九州市立高等学校については存続させるものの、地域の魅力を生かした特色ある教育内容の充実などの改革が急務であり、探究的な学習活動の充実や学科構成を変更することなどを決定し、令和６年度に現行の普通科を「未来共創科」（地域社会に関する学科）に再編した。

変化が激しく、不確実性の高い時代にあって、様々な年齢・分野・立場の方々と対話・連携・協働しながら、共に未来を創造する学科を目指していくことを前面に押し出すことにより、旧来からの教育活動を見直し、授業研究、「指導者から支援者・伴走者へ」、生徒が主役の学校づくりにつなげていく。

（２）新学科の目標

本校の「未来共創科」では、各教科や行事、委員会活動、部活動など、すべての教育活動において、「多様な学び」を生徒が経験・体験できるように授業改善に取り組んでいる。

また、学校目標として設定している「生きる力」の育成に当たり、以下の２つの力の育成に特に重点を置いている。

- 自らの意志で選んだ道を成立させることができる力
- チームで課題解決することができる共創する力

「未来共創科」には、これまでの「普通科」で実施してきた教育課程に加えて、北九州市立高等学校独自の設定教科「イチリツ・プロジェクト」（以下「イチプロ」という。）を新設しており、必修科目「総合的な探究の時間」（以下「総探」という。）と合わせて、９単位以上を取得できるように設定している。

「イチプロ」では、希望あふれる未来を地域の様々な仲間（産・官・学・民）と共に創る学びを通して、生徒のキャリア形成と進路選択（大学進学等）に生かしていくとともに、教科学習との接続についても着実に取り組むことにしている。

R7北九州市立高等学校の「スクール・ミッション」、「スクール・ポリシー」

◆スクール・ミッション「このような学校にします。」

市内唯一の「市立」高等学校の強みである北九州市のリソースを活用して、「産・官・学・民」と連携・協働しながら、絶えず変化する未来の社会や世界をけん引する若者を育成します。

◆グラデュエーション・ポリシー（GP）「このような力を育成します。」

＜未来共創科＞

絶えず変化する未来の社会や世界をけん引する若者へと育てるため、次の2つの育成を目指します。

自らの意志で選んだ道を成立させることができる力
チームで課題解決することができる共創する力

※ 「共創する力」の定義は次のページに記載

◆カリキュラム・ポリシー（CP）「このような学びを展開します。」

＜未来共創科＞

全ての教育活動（授業、行事、部活動）において

他のどこよりも**圧倒的に多様な学び・学び方**を通して

「発見する」「まとめる」「対話する」活動を繰り返し

「共創する力」を育成する学びを展開します。

◆アドミッション・ポリシー（AP）「このような力を伸ばしたい生徒を受け入れます（求めます）。」

＜未来共創科＞

- 探究的な学びに深く取り組む力
- 何事にも粘り強く取り組む力
- 現状に満足せず、向上しようとする力
- 他者と協力し、課題解決に取り組む力
- 多様な人々を巻き込みチームを形成し、
チームの一員として他者と協働し、課題解決に取り組む力

これらの力を伸ばしたい生徒を求めます。

2 令和6年度事業の取組

(1) カリキュラムの検討

ア 「カリキュラム検討委員会」の体制

令和5年度に、校内に「カリキュラム検討委員会」を設置した。副校長1名、教職員3名、カリキュラム等コーディネーター及び大学生が定期的集まり、令和6年度からのカリキュラムの検討を行ってきた（月1回の定例会）。

学びのプログラムの内容に応じて、関連する外部の企業や大学、行政等と連携し、学び創り及び実施後の振り返り、次年度以降の計画準備を進めることができた。

令和6年度も月1回の定例会として開催し、カリキュラム作成の教員2名（主幹教諭・指導教諭）を中心に、カリキュラム等コーディネーター（北九州市立大学 地域創生学群 廣川准教授。以下「廣川CN」という。）、副校長1名、学び創りの支援者としてコンソーシアム構成員1名（北九州市立大学 地域創生学群 眞鍋教授）、廣川CN及び眞鍋教授のゼミ生にご参加いただき、協議を進めた。



写真 本校教員、カリキュラム等CN、コンソーシアム構成員、大学生がカリキュラムを検討している様子

イ カリキュラムの試行実施・改善

文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業」（普通科改革支援事業）に採択された令和4年度には、教職員の専門性を生かした探究的な学びを展開する「市高タイム」を週2単位設置し、試行実施しながら、生徒と共に「探究的な学び」に取り組み、研究を重ねた。

令和5年度には、地域や企業、大学、行政などの外部と連携した学びへと発展させ、更なる研究を重ねてきた。

2年間の取組を踏まえ、令和6年度に本校独自の探究的な学びを中核に据えた学校設定科目「イチリツ・プロジェクト」（以下「イチプロ」という。）のカリキュラムを開発した。

「イチプロ」の開発メンバーには、本校のカリキュラム開発の主軸を担う村上主幹教諭と吉岡指導教諭を充てた。また、福岡県中小企業家同友会と協働した「共育型インターンシップ」（以下「インタビューシップ」という。）を導入し、その学びづくりについては本校の高瀬教諭と、廣川CNが中心となり、開発を進めてきた。

令和6年度は、月例のカリキュラム定例会に北九州市立大学地域創生学群の廣川ゼミ及び眞鍋ゼミの大学生にも参画してもらい、カリキュラム実施前の打合せと実施後の振り返りを実施した。

大学生には、生徒が学ぶ様子も観察してもらった。生徒の振り返りやアンケート結果等を踏まえて、意見やアイデアを出してもらい、同世代の意見も取り入れたカリキュラムの改良につなげることができた。令和7年度以降のカリキュラムの再構成にも生かしていきたい。

ウ 「イチプロ」に係る単位数の検討

令和5年度入学生までは、「総合的な探究の時間」（以下「総探」という。）の単位を3年間で3単位（各学年で1単位）として教育課程を構成していたが、探究の仕方の学習に留まらざるを得ず、週1時間での学びには限界を感じていた。生徒が問いを立て、その問いに対する解決方法を探究することができたとしても、考えをまとめるだけで終わってしまい、生徒がその先のことを深掘りしていくことにはつながらなかった。

本校が目指すのは、設定した問いに対して、自ら考えた解決方法にチャレンジして、成功も失敗も体験した上で、更なるチャレンジや探究につなげるなど、能動的にアクションを起こす生徒である。

そのためには、1学年で1単位の単位数では実現困難と考え、令和6年度入学生からは、3年間の探究的な学びの時間を総探で3単位、そして「イチプロ」で6単位の計9単位（各学年で3単位）へと大幅に拡大することにした。

実際に、令和6年度入学生に対して、週3単位の探究的な学びを実施したところ、計画通りにいかないことが頻発し、生徒の探究活動時間を削らざるを得ない事態が発生した。

「授業時間で対応できないのなら、生徒に宿題として課せばよいのでは」とも考えたが、本校では複数の生徒で対話しながら課題解決にチャレンジする「共創力」を育むことを目指していることから、できるだけ学校の授業時間中に実施できるように努めた。

カリキュラムの内容を精選することも検討したが、学びの希薄化が懸念されるため、令和7年度入学生からは、探究的な学びの時間を3年間で、総探で3単位、「イチプロ」で9単位の計12単位（各学年で4単位）へと大幅に拡大することにした。

各学年で1単位増やした中の一部に、「イ カリキュラムの試行実施・改善」で述べたデータ・サイエンス教育、アントレプレナーシップ教育、グローバル教育に関する体験的な

学びも導入することとした。これらの3つの教育は、コンテンツ・ベースの知識・技能を身に付けさせることが目的ではなく、体験的な学びを通して、これからの社会を生きるために必要なものとして生徒が実感を持って受け止められるように工夫していきたい。

エ コーディネーター及び外部有識者等との連携強化

カリキュラム検討に当たっては、校内での検討のほか、北九州市立大学 地域創生学群の准教授である廣川CNや、コンソーシアムの構成員等とも協議した。学習内容の連携と深化に向けた検討を重ねることにより、生徒たちがより実践的なスキルを習得するための土台を整えることができたと考えている。

廣川CNの専門的知見（持続可能な地域づくり、地域資源管理論など）や、地域創生学群での学びのカリキュラム作りのご経験等を反映させることで、教育プログラムの質的向上につなげることができた。

また、校内でのカリキュラム検討の状況・内容等について廣川CNに適宜ご相談することにより、カリキュラムの目標設定、学びを行う上で必要となる知識や技能などについてご助言いただくことができた。

カリキュラムの開発過程において、教育委員会、大学、コンソーシアム構成員、様々な企業等と積極的に意見交換することで、社会や時代からの要請に対応した教育内容となるように努めた。

さらに、廣川CNから様々な探究的な学びに関するワークショップを紹介いただき、生徒の学びの場の拡大にもつなげることができた。

オ 大学生の企画・立案による学び創り

令和6年度は、廣川CN及び同大学に属する眞鍋和博教授（コンソーシアム構成員）に加え、各ゼミ生とも協働してカリキュラム検討を行うことができた。

カリキュラム検討の場に学生が参加してくれることは、大学のゼミで地域社会課題を解決する実体験を踏まえた意見・コメントを収集でき、非常に参考になる。また、学生たちには、生徒の学びの伴走支援役も担ってもらい、生徒がよいロールモデルと日常的に接することができるように工夫した。

さらに、大学生が全10単位時間でミニ探究のサイクルを回す授業を企画・立案し、本校カリキュラム担当の教員とともに検討会を重ね、学びを実施した。

学生から、生徒側の視点に立った意見をもらえたことで、本校の教職員にとっては地域課題の解決や探究的な学びづくりに必要な視点、手順などを改めて考える機会となった。

高大連携の強みを生かした大学生との連携・協力体制については、本事業終了後も継続していきたい。



写真 （左）大学生考案のミニ探究サイクルを回す最後の授業（発表会）の様子
（右）コンソーシアム構成員や企業の方などが講評している様子

カ 先進事例の視察とその活用

令和6年度も、先進的・革新的な教育プログラムを導入している学校の視察や、他校のカリキュラム担当教員等との意見交換の機会を積極的に設定した。

視察には、管理職と教職員で参加することで、視察先で見聞きした授業の様子や学びのプログラムについて共通理解が図りやすくなり、本校の学びに取り入れやすくなった。

カリキュラム作りに関する情報、探究的な学びの伴走の仕方、各校が課題と感じていること、その課題解決に向けた取組なども大変参考になるが、それ以上の収穫は視察校とのつながりであり、視察後の情報交換等も継続的に行うことができた。

教職員からは、普通科改革支援事業に採択された指定校との連携プロジェクトに生徒たちを参加させたいとの強い思いがあり、新しい試みとして挑戦することにした。

指定校が主催する「おにぎりプロジェクト」（地元の魅力を詰め込んだおにぎりを開発するプログラム）に参画することで、生徒が他校生徒と意見交換する機会となったことはもとより、新しいことにチャレンジする楽しさを生徒たちが経験することができ、他のプロジェクトや郊外のワークへの積極的な参加にもつながっていった。

令和7年度は、このプロジェクトを本校で開催することになり、開催に向けて教職員の熱量も高まっている。

キ 探究的な学びづくりのための教職員の実践

「イチプロ」の実施、視察校で学んだ探究的な学びの導入、教科横断的な学びの実践、企業と連携した学び、異学年協働での学びなど、多様な学習スタイルにチャレンジする教職員が昨年度よりも増えてきた。

また、外部組織の研修会や企業が主催する集まりに積極的に参加したり、先進的なICTの活用方法について学んだりするなど、多様なチャネルを活用した学び創りに励む教職員も現れるようになってきた。

今後とも、意欲的な教職員が積極的に学ぶことができる環境づくりに努めたい。

また、令和5年度から配置している探究学習支援CNである大庭CN（西南女学院大学非常勤講師）にも授業を見てもらい、授業改善に必要なポイントなどを示唆していただくことができ、教職員の貴重な糧となっている。

（２）高校入試改革

ア 令和7年度入学者選抜（令和6年度入学者選抜からの更なる改革）

（ア）特色ある「特色化選抜」の実施

入試の変遷（カッコは定員。年度は選抜年度）

令和5年度	令和6年度	令和7年度
特色化選抜（90名）※初導入 推薦入試（80名） 一般入試（30名）	特色化選抜（100名） 推薦入試（90名） 一般入試（10名）	特色化選抜（160名） 推薦入試（募集なし） 一般入試（40名）

令和5年度入学者選抜における「特色化選抜」では、検査内容が面接のみであった。

しかし、入試は、志願者や保護者、中学校の先生方がその高校のスクール・ミッションやスクール・ポリシー、教育課程などについて深く知るための「最大の広報手段」でもある。

そのため、まずは本校の入試の在り方を根本的に見直すことが必要であり、本校がどのような学びを大切にしていける学校なのかを対外的に的確に伝えられる効果的な方策等について、コンソーシアムや運営指導委員会にも諮りながら、検討を進めた。廣川CNからは、大学の総合型選抜の傾向や状況なども情報共有いただき、それらも参考にしながら選抜方法について熟議を重ねた。

検討の結果、令和6年度選抜から、「コミュニケーション重視型選抜」（6名程度の志願者が、1つの課題に対して協働して解決する過程を検査するもの）を導入していただくことを決定した。

課題は、架空の市長から依頼されたまちづくり実現させることであり、6人程度の志願者で「最適解」を導き出すことを課した。この課題では、志願者は市長のまちづくりへの思いのみならず、様々な年代・背景の市民から寄せられたバラバラの意見・要望なども踏まえ、地図上の候補地に、学校や公園、スーパーマーケット、病院の配置を考えるワークを行うことになる。また、評価者は、志願者のワークや振り返りの様子などを参考に、検査を実施した。

課題

市長からみなさんに「街づくり」を依頼されました。
「市長が求める街づくり」は次の通りです。

市長が求める街づくり

- ・ 便利で、安全・安心な街
- ・ 学校に通いやすく、小・中・高が互いに交流しやすい街
- ・ 別紙の「地域住民・関係者の声」を大切に街づくり

皆さんで協力して、次の(1)・(2)に取り組んでください。

(1) 「市長が求める街づくり」を踏まえ、地図上の候補地①～⑥に6つの施設を設置する場所を決定し、各施設のプレート地図上に配置すること。

- | | | |
|-------|-------------|------|
| あ 小学校 | い 中学校 | う 高校 |
| え 公園 | お スーパーマーケット | か 病院 |

(2) (1) のように配置した理由を「市長への提案」プリントに記入すること

コミュニケーション重視型選抜検査の流れについて

- 1.【個人でのワーク】(7分)
自分の考えをまとめる
- 2.【グループワーク】(20分)
グループで「課題」に取り組み、市長への提案をグループで1枚作成
- 3.【個人でのワーク】(5分)
グループワークの振り返りを記入
- 4.【面接】(15分)
グループ面接

※検査中は質問は受け付けません。
(資料の印刷が鮮明でない、体調が悪いなどあれば、手を挙げてください。)

住宅街①の住民

地域住民・関係者の声

この地域は川や木々など自然豊かな地域なので、その環境を壊さないように街をつくってほしいです

住宅街②の住民

この地域はお年寄りが多く住んでいて、車を持っていない人が多いので、スーパーマーケットや病院が近くにほしいです。

住宅街③の住民

この地域は子育て世帯が多いので、学校や公園などを住宅街の近くにつくってほしいです。

高層マンションの住民

一番人が集まる駅の近くに病院やスーパーマーケットをつくってほしいです。

高校の関係者

高校には他の街からも生徒が通いやすいように、駅の近くにしてほしいです。

中学校の関係者

小学生との交流や高校生との交流が行いやすい近い場所にしてもらいたいです。

小学校の関係者

運動会や学校行事で、大きな音や子どもたちの声が響くことがあるので、近隣の迷惑にならないようにしたいです。

病院の関係者

少しでも多くの人が利用しやすい病院にしたいです。また、患者さんには静かな環境で、治療に専念してほしいです。

スーパーマーケットの関係者

多くの人に利用してもらえるように、人が多いところにスーパーマーケットをつくりたいです。また、近くに他のお店がないところがいいです。



画像 令和6年度特色化選抜「コミュニケーション重視型選抜」の検査課題

このコミュニケーション重視型選抜を実施する上で、より開かれた入試を目的に、令和6年度入学者選抜から学校関係者以外の検査員（教育委員会関係者）を導入した。その際にもらった意見やその他の反省点から、2つの課題が浮き彫りとなった。

- 課題1 多様な資質・能力をもった生徒を採用するための入試設計
- 課題2 特色ある入試を実施していることの周知

●多様な資質・能力をもった生徒を採用するための入試設計

本校では、令和6年度に開科した「未来共創科」の学科名に含まれる「共創」のキーワードを大切にしている。学校生活の中で、各生徒が仲間と共に課題解決に取り組み、多様な資質・能力を生かしながらチームの一員として成長していくことを目標としている。

そのため、令和7年度入学者選抜においては多様な生徒を採用することが必須と考え、選抜方式の多様化に取り組むこととした。また、検査員に外部有識者（コンソーシアム構成員）を充てることにより、高校の出口である大学や企業の考えも取り入れた選抜とすることにした。

【参考：多様な選抜方法】

年度	令和6年度入学者選抜	令和7年度入学者選抜
方式	・コミュニケーション重視型選抜 ・評定重視型選抜	・A方式 コミュニケーション型 ・B方式 プレゼンテーション型 ・C方式 実績型
内定基準	中学校3年次の評定	中学校3年次の評定に加え、英検や数研などを加算

中学校3年次の評定に加えて、実用英語技能検定や実用数学技能検定など、中学校までの実績を評価する加算方式も新たに導入した。

また、従来からのA・C方式に加えて、事前に与えられたテーマと課題を踏まえて志願者がプレゼンテーションをし、それに対して口頭試問を行うB方式「プレゼンテーション型」を新たに導入した。

B方式を取り入れることにより、A方式とは異なる資質・能力をもつ生徒の採用につながる可能性が高い。また、実用英語技能検定や実用数学技能検定などの実績を評価する加算方式を導入することで、多様な得意分野をもつ生徒の採用が期待できる。

さらに、令和7年度入学者選抜では、特色化選抜のA・B方式において、外部有識者検査員を活用した。

検査員の役割は、本校のアドミッション・ポリシーを踏まえ、教職員にはない視点で志願者を評価いただくことである。大学や企業など、社会で活躍される方々のご意見を参考にすることで、志願者の思わぬ魅力や特色を見出すことにつながったと考えている。

さらに、令和7年度の特徴化選抜では、より多様な生徒を採用することで、学校の中に多様な考えやアイデア、意見があふれ、多様な仲間と1つの課題に協働して取り組む環境を作りたいと考えた。

そのため、令和6年度の特徴化選抜で実施したコミュニケーション重視型に加えて、以下の2方式を特徴化選抜に新たに導入した。

- 生徒の多様な実績を評価するための加点方式
- 生徒自身が体験したこと、考えていることを発表するプレゼンテーション型検査

コミュニケーション型の課題についても、令和6年度選抜ではどのグループも共通の課題に取り組む形であったが、令和7年度選抜では課題を3つ提示し、志願者がグループ内で課題解決する過程のみならず、志願者のグループが課題を選択する様子も検査の対象とした。

これらの入試の検査課題を検討する過程については、本校の教職員自身が、本校が軸とする学びが何かを直に感じるとともに、学校経営方針を振り返るよい機会にもなった。



画像 令和7年度特徴化選抜「コミュニケーション型」の課題3つ

●特色ある入試を実施していることの周知

本校の特色化選抜方法について工夫・改善に努めているものの、具体的な内容が中学生や保護者に適切に伝わっているかについては懐疑的であった。

本校の受検を積極的に検討している生徒が入試問題等の情報収集に努めるのは自然なことだが、多様な生徒を採用するためには、本校が目指す教育や選抜方法を「本校が第一志望ではない生徒」に対しても適切に伝えることが必要と考えた。

そのため、令和7年度入学者選抜では、以下の2点の取組を行った。

- ① 特色化選抜の検査問題を本校ホームページに掲載
- ② 生徒・保護者・中学校教職員への入学者選抜体験会の実施

②の体験会では、実際に使用した特色化選抜入試問題のキットを使った体験会を開催するとともに、本校のアドミッション・ポリシーの説明、特色ある入試を実施する目的についても説明した。

入試は、本校が目指す教育の在り方を志願者やその保護者、中学校の先生方をはじめ、対外的に示す絶好の機会である。

大学入試や企業の採用試験においても、多様な入試方法、選考方法が実施されていることから、本校の入試においても、更なる改善に向けて継続的に取り組んでいきたい。

(イ) 入試改革の過程で得られたこと（志願者数の変化など）

令和6年度入学者選抜では、「未来共創科」の「コミュニケーション重視型選抜」の定員枠（9名）に、54名の中学生が志願した（志願倍率6倍）。

検査を終えた生徒からは、「初めて集まる生徒とチームを組むため、緊張したが、とても楽しかった」「入学してどのような学び方をするかがイメージできた」などの声があり、令和7年度入学者選抜においても同様の声が寄せられている。

令和6年12月から令和7年2月にかけて、令和7年度以降の入学を検討している中学生や保護者向けに「特色化選抜体験会」も開催し、本校がどのような学び創りを目指しているのか、どのような資質・能力がこれからの社会で求められているのかを実体験する機会を提供することができた。

本校での入試改革で構築した教材等を、中学校の教職員向け研修会で使いたいとの声もあり、中学校に体験セットを貸し出したり、講師として本校の教職員を派遣したりして、本校の入試改革の目的、本校が目指す学校づくり、グラデュエーション・ポリシーなども併せて説明することで、本校に対する興味・関心、理解の深化につなげることができたと感じている。

(3) 学科再々編

ア 情報ビジネス科の募集停止（未来共創科への再編）

社会が大きく変化する中で、学びの概念も大きく変化している。

これからの時代に必要な能力・スキルは、基礎能力や専門知識、資格を習得するだけではなく、ゼロからイチを生み出す能力、一つのことを掘り下げる姿勢、グローバルな社会課題を解決する意欲、多様性を受容し他者と協働する能力などが求められている。

令和6年度に開科した未来共創科では、生徒が学校内外の様々な年齢・分野・立場の方々と対話・連携・協働しながら、「北九州グローバル人材」として必要な資質・能力の育成を目指すこととしているが、これは未来共創科のみならず、学校全体として育成すべき力である。

また、昨今、「ビジネス」の分野でも、企業に勤めるという選択肢のほか、自ら枠を超えて行動を起こし、新たな価値を生み出していく「アントレプレナーシップ」なども注目されている。つまり、一定の商業やビジネスに関する知見を有すること、情報技術を駆使してビジネスを変革する力などは、北九州市立高等学校のすべての生徒が身につけるべきものである。

北九州市立高等学校には、普通科（令和6年度入学生は未来共創科）と情報ビジネス科があるが、情報ビジネス科については志願倍率が1倍に達しなかった年度が複数回ある。

令和6年度入学者選抜においても、情報ビジネス科の特色化選抜の倍率は、昨年度と同様に1倍に達することができなかった。また、情報ビジネス科の一般入試での合格者の約7割については、元々は未来共創科を志願していた者が占めており、実質的な志願倍率は0.42倍となっていた。

そのため、情報ビジネス科が有するビジネスの知見・ノウハウ等を未来共創科のカリキュラムに盛り込み、学科を1本化してアップデートすることにより、双方のよさを生かした重層的な学びを生徒に提供し、これからの社会に必要な汎用的能力を有する人材の育成に資するものとするとし、令和6年度に学則の一部改正を行った（具体的には、令和7年度の入学者選抜から、情報ビジネス科の入学定員を削除（2学級減）し、未来共創科の入学定員については120人から200人に変更（2学級増））。

イ 未来共創科の3本柱

（データ・サイエンス教育 / アントレプレナーシップ教育 / グローバル教育）

これらの学びは、令和7年度入学生から導入することになるが、教科書どおりの知識・技能を習得させることなく、これらの学びに触れる機会を通して、必要性を感じたり、もっと学びたいという主体性につながる学びの実現に向けて、学校だけでなく、専門性の高い方や、専門として活躍している方に触れる機会を作ったりしたいと考えている。多様な人を巻き込んで、生徒に意味のある学びをつくっていきたいと考えている。

データ・サイエンス教育については、本年度、試行実施を進めているところである。



写真 データ・サイエンス教育に関するプレ実施授業の様子

(4) 広報の充実

ア コンセプト・ブック

本校では、令和6年度に事業企画室を立ち上げ、新たな企画・運営等を校務分掌に位置付けている。

令和7年度入学者募集案内用のコンセプト・ブックの表紙(右図)には、本校が目指す「なりたい自分に出会う場所」への冒険が始まるということを標榜している。学校での学びや教育活動を「冒険」と見立て、中身を構成している。

ありきたりな高校パンフレットではなく、まずは目を引き、手に取ってもらうことが重要である。そのため、前例踏襲や他の高校と似たような見た目ではなく、事業企画室の教員が様々な案を出し合い、この表紙に決定した。

このイラストは、生成AIに「冒険が、今、はじまる」という言葉と合うものを繰り返し生成させて完成させたものであり、多方面から大変大きな反響をいただいている。



画像 コンセプト・ブック(表紙)

なお、このイラストを活用したクリアファイルも作成しており、学校見学会等でも配付している。



画像 令和7年度配付用のクリアファイル（2パターン）

イ 生徒企画のプロモーション・ビデオ

令和6年度入学者募集用に製作したプロモーション・ビデオ「学校の色を決めるのはキミだ!」は、生徒が参加・出演しているものの、製作の中心は教職員であり、業者による撮影・編集によって完成させた。

令和7年度入学者募集用を製作する際には、PVの製作活動を生徒の「多様な学び」の機会の一つとして捉え、生徒が主体的かつ自発的に考え、相互に協力し合って製作することを目指した。

アクターとしての出演を希望する生徒、編集などの裏方仕事に関心のある生徒などを幅広く募り、企画・運営・製作のすべてを生徒たちに委ねることにした。主役は生徒であることを念頭に置き、教職員はあくまで脇役として、生徒の成長を全力でサポートすることに徹した。

その結果、絵コンテの作成担当、カメラワーク、編集、出演、小道具製作など、教職員からの指示を受けなくても、生徒たちが自発的に何度もミーティングを重ね、カットなしの一発撮りによって完成させることができた。

この製作過程を通して、自分の思いをわかりやすく伝える方法を「発見」したり、複数の見解がある場合には互いに意見を出し合い、メリット・デメリットを踏まえて折り

合いをつけながら最適解を導き出したり（「まとめる力」、製作仲間である他者と共に考え、「対話」し、「共創する力」の育成の一助になった。

本校のカリキュラム・ポリシーにおいても、これらの力を育成する学びを展開することを掲げており、生徒たちが無意識ながらもこれらの力の大切さを実感できたことを誇りに思う。

◆カリキュラム・ポリシー（CP）「このような学びを展開します。」

＜未来共創科＞

全ての教育活動（授業、行事、部活動）において

他のどこよりも**圧倒的に多様な学び・学び方**を通して

「発見する」「まとめる」「対話する」活動を繰り返し

「共創する力」を育成する学びを展開します。

参考 本校のカリキュラム・ポリシー



画像 プロモーション・ビデオ製作動画の一場面

ウ 保護者説明会、中学生見学会

令和5年度に初めて実施した保護者向け説明会であるが、令和6年度にも開催した(2学期に2回開催)。会場については本校ではなく、駅に近い市立施設を借用して実施するなど、参加しやすい環境設定に努めた。

昨年度の保護者説明会では、「大学へは進学できますか?」「どんな大学に進学していますか?」など、「高校卒業後の出口」に関する質問が多かった。つまり、本校での教育活動の中身を聞かれているわけではなく、そのことは大きな課題であると考えていた。

令和5年度から令和6年度にかけて、学校見学会、保護者説明会で保護者が入試体験する機会の設定(特色化選抜コミュニケーション重視型選抜の主旨を説明した上で、実際のキットを使って体験)、魅力的なコンセプト・ブック(学校案内)の製作・配付、学校ホームページや学校インスタグラムの改善などに取り組みながら、これからの社会で生きるための力とは何なのか、そして本校がその力を育成するためにどんな教育活動を展開しているのかなどをあらゆる機会を捉え、説明してきた。

それにより、令和7年度入学者向けの保護者説明会や学校見学会では、「これからの社会の在り方」を踏まえ、学びに取り組んでいる本校の姿勢や取組に共感し、「座学だけではない、こんな学びを提供する学校に通わせたいと思っていた」、「学びへの考え方にとっても共感し、どのような学校だろうかと気になって参加した」などのコメントを多数いただいた。つまり、「大学進学」などの出口を重視した高校選びから、「高校3年間の学び」という視点を重視される保護者が増えてきたように感じている。



エ 特色化選抜体験会「Trial Session」

令和6年12月に、特色化選抜の検査方式「コミュニケーション重視型選抜」の中学生向けの体験会を2回開催した。対象者は、令和7年度入学者の特色化選抜「A方式（コミュニケーション型）」を受検しようと考えている生徒で、実戦形式の体験をしてもらうことを想定して、この体験会を設定した。

ただ、「A方式（コミュニケーション型）」「B方式（プレゼンテーション型）」「C方式（実績型）」のどの方式を選択して受検すればよいのか悩んでいる中学生もいることから、特に人数制限はせずに、参加生徒を募ることにした。その結果、参加希望者が160名に上り、2日間に分けて体験会を開催することになった。

令和6年度に実施した入試の流れと同様の流れで進めたが、参加した中学生には合格するための助言ではなく、本校が求めている生徒像（アドミッション・ポリシー）について、中学生でもわかるように説明することに徹した。

◆アドミッション・ポリシー（AP）「このような力を伸ばしたい生徒を受け入れます（求めます）。」

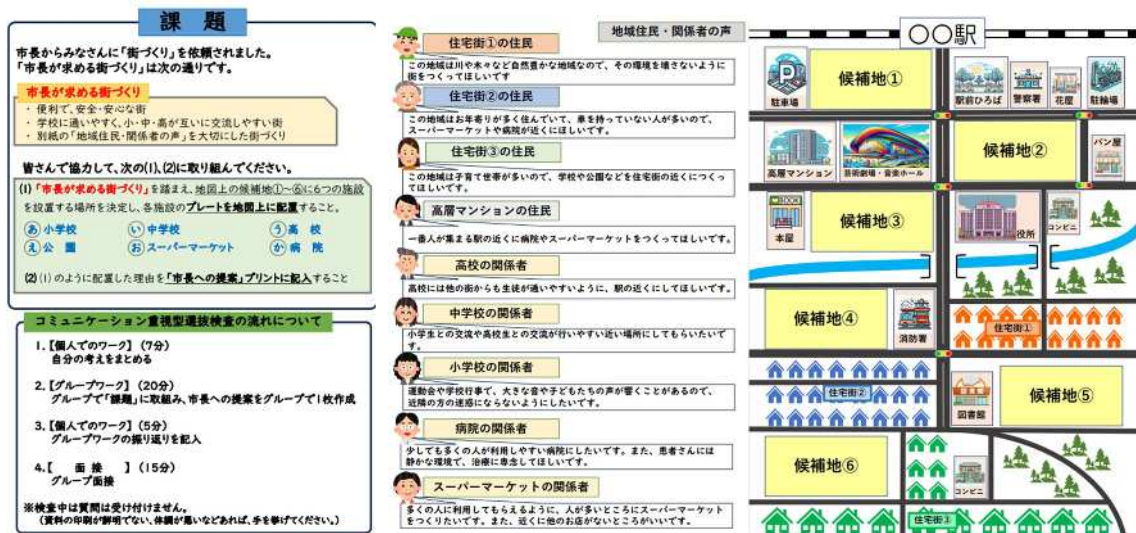
＜未来共創科＞

- 探究的な学びに深く取り組む力
- 何事にも粘り強く取り組む力
- 現状に満足せず、向上しようとする力
- 他者と協力し、課題解決に取り組む力
- 多様な人々を巻き込みチームを形成し、
チームの一員として他者と協働し、課題解決に取り組む力

これらの力を伸ばしたい生徒を求めます。



写真 特色化選抜体験会「Trial Session」の様子



画像 令和6年度特色化選抜「コミュニケーション重視型選抜」の検査課題

(5) 関係機関との連携・協働体制の維持・構築

ア 市高魅力化コンソーシアム

コンソーシアムについても、令和4・5年度からの議論を引き続き行うため、構成員に大きな変更はないが、令和6年度に本市に初めて設置された「Z世代課」課長にも就任してもらい、これからの北九州市をけん引する若者の人材育成の在り方等について意見をもらった。

令和5年度と同様に、3人のCNにもお声かけして、コンソーシアムにご参加いただいた。

コンソーシアムは、5・8月・11月・2月に開催した（計4回）。

構成員からは、市高が数年の間に劇的な変化を遂げていることを評価していただき、特に入試改革については高い評価を受けている。

一方で、カリキュラム・デザインを考えた時に、「入試」「高校3年間のプログラム」「出口指導」の三位一体が大事であり、3年間を貫くカリキュラム・デザインが必要との意見をいただいている。また、未来共創科のプロモーションや企業とのコラボレーションも面白いが、他の学校とは異なる独自性をもっと発揮すべきではないかとの意見もあった。

また、情報ビジネス科と未来共創科の住み分けや学科の区別がつきにくくなっていることは課題であり、旧来型のいわゆる商業教育がどこまで適応できているのかというところはしっかり検証したほうがよいとの声もあり、学科構成の再編検討の参考意見とさせていただいた。

イ 北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会

運営指導委員会の委員については、令和4・5年度からの議論を引継ぎ、円滑に行うため、人事異動等の影響がなかった委員（3名）については、令和4年度からの継続とした（学識経験者及び行政関係者は改選）。運営指導委員会には、「カリキュラム等CN」にも参加を依頼して、カリキュラムの検討状況や大学入試の変化などについても情報共有いただいた。

運営指導委員会は、7・10・2月に開催した（計3回）。新学科の運営状況、探究的な学びに係る取組、令和7年度の入学者選抜方法などについて協議した。

委員からは、市高の魅力化は非常に革新的かつチャレンジングであり、大人集団が変わり、それを見た生徒たちが変わるといった階層性があるように感じるとの一定の評価を受けている。

一方で、個別の学びの蓄積方法、個々の学びの様子を教職員が一元把握・共有する仕組み、生徒のセルフチェック法、評価の仕方は十分に研究をしていただきたいとの意見もあったことから、これらについては重要研究課題として引き続き取り組んでいく。

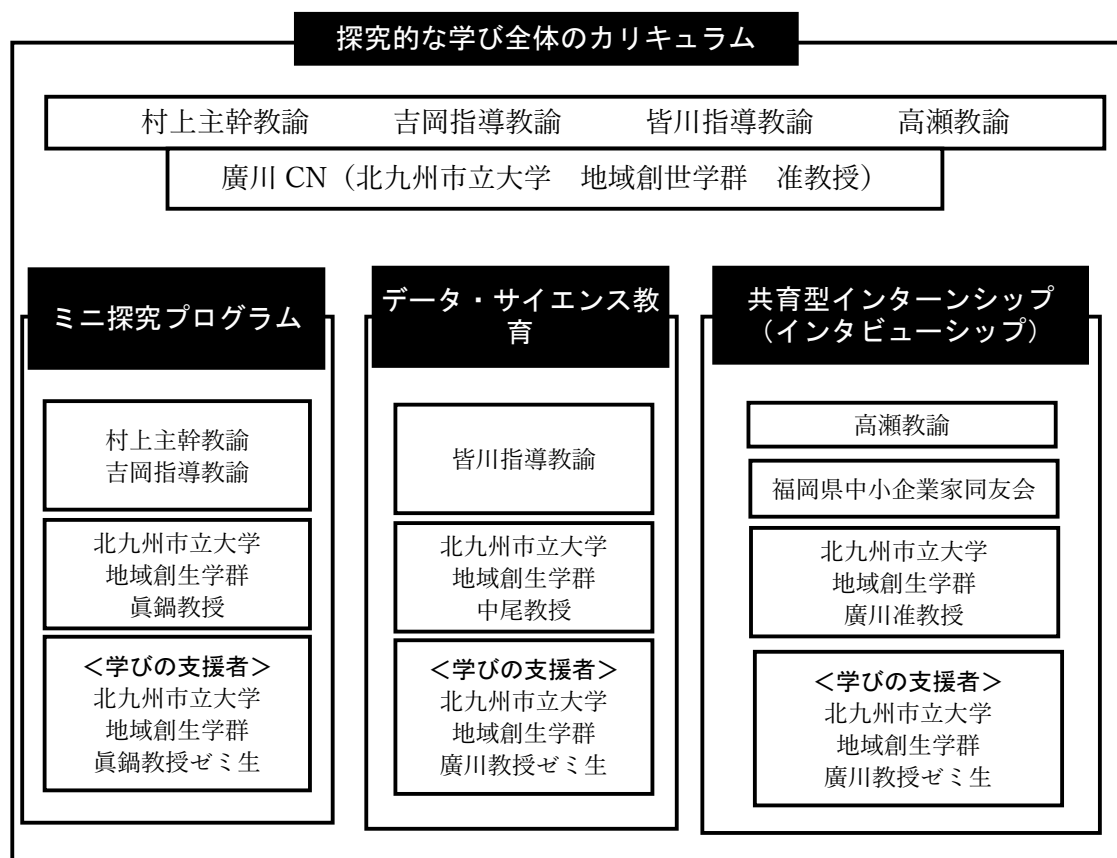


写真 市高魅力化コンソーシアムと運営指導委員会の合同会議（令和7年2月21日）

ウ 大学・企業等との連携・協働体制

本校では、下図のような外部との連携・協働体制を構築して、探究的な学び創りに取り組んでいる。大学生も、カリキュラム創りや学びの支援者（生徒と授業で関わり学びをサポートする役割）として関わっており、生徒の学びに大きく寄与している。

今後は、アントレプレナーシップ教育やグローバル教育に関しても、このような連携体制の下で推進してまいりたい。



（6）アウトプットの間づくり

本校では、多様な体験・経験、学びを通して、以下のGP及びCPの図のように「発見する」「まとめる」「対話する」活動を学校教育活動の全体で繰り返し、「共創する力」の育成に取り組んでいる。

これらの力は、すべての生徒が身に付けるべき、これからの社会に必要な「生きる力」であるが、体験・経験、学びを通して知識や技能を「インプット」することのみならず、「アウトプット」する機会を設けることが極めて重要である。

令和6年度の「アウトプット」の取組について、以下に詳説する。

◆グラデュエーション・ポリシー（GP）「このような力を育成します。」

<未来共創科>

絶えず変化する未来の社会や世界をけん引する若者へと育てるため、次の2つの育成を目指します。

自らの意志で選んだ道を成立させることができる力
チームで課題解決することができる共創する力

◆カリキュラム・ポリシー（CP）「このような学びを展開します。」

<未来共創科>

全ての教育活動（授業、行事、部活動）において

他のどこよりも**圧倒的に多様な学び・学び方**を通して

「発見する」「まとめる」「対話する」活動を繰り返し

「共創する力」を育成する学びを展開します。

ア インタビューシップ発表会 in 小倉

本校では、一般社団法人福岡県中小企業家同友会のご協力の下、全1年生（200名）が一人で企業一社を訪問し、経営者や社員の方々との対話を通して「働くこと」の意義などについて深く掘り下げる「共育型インターンシップ」（通称：インタビューシップ）に取り組んでいる。

生徒は、自ら企業にアポイントをとり、2日間で聴き取り等を行い、対話から学んだことをパネルにまとめ、自身が感じたことを発表することになる。

これまでの探究学習では、学校内で、学友や教職員などの顔見知りや仲間に対する発表に終始することが多かった。説明する場所や相手、発表形式などを学校外に変更することは、一定の負担はかかるものの、受け入れてくださった企業の経営者や社員の方々、生徒の保護者、一般の方などの前で、敢えてオープンな形での発表会を設定することにした。

発表までの授業では、小グループのチームを形成し、互いに発表し合ってよかった点や改善すべき点などを確認したり、不明瞭な点等について質問したり、質問に対するわかりやすい回答を検討する時間等を設定した。

こうしたやりとりの繰り返しをきっかけとして、発表者は、どのような言葉を選ぶべきか、どんな話し方なら伝わるのか、想定問答などを事前によく検討しておく必要性に迫られることになり、様々な場面を想定しながら主体的に考える生徒が増えていった。

準備の仕方がわからずに困っている生徒には、教職員が伴走者として支援し、考えるヒ

ントにつながるような質問を投げかけたり、仲間と共に考える場面を設定したりして、自分で納得しながら準備が進められるように工夫した。

令和6年10月4日（金）に、小倉駅前の改札口及び商店街のイベント広場を借用して第1回目の発表会を開催したが、小倉駅で乗り継ぎをする旅行客や学校の近くでは出会うことのない一般市民などの前で発表することになり、生徒にとっても大変よい刺激となった。



イ 他校とのコラボ企画（おにぎりプロジェクト）

本校の目標の1つは、多様な学びを提供することである。様々な活動を通じて、普段見ることのない生徒の一面を引き出すことにチャレンジしたい。そのきっかけになればと、文科省の普通科改革支援事業を通じてつながった他の指定校とのコラボ企画に参画した。

その企画の名称は「おにぎりプロジェクト」である。「おにぎりプロジェクト」とは、地域の特産品を生かしたその地域らしいおにぎりを生徒が考案し、地域の賑わいにつなげるプロジェクトで、浜松学芸高等学校で開発され、令和5年度には、浜松学芸高等学校と京都市立開建高等学校の2校で開催されたプロジェクトである。そのプロジェクトに令和6年度に本校も参画した。

本校のカリキュラム・ポリシーを踏まえ、「発見する」「まとめる」「対話する」場をワークごとに設定するなどの工夫をしながら、このプロジェクトに参加した。

◆カリキュラム・ポリシー（CP）「このような学びを展開します。」

＜未来共創科＞

全ての教育活動（授業、行事、部活動）において

他のどこよりも**圧倒的に多様な学び・学び方**を通して

「発見する」「まとめる」「対話する」活動を繰り返し

「共創する力」を育成する学びを展開します。

この取組への参画に当たり、カリキュラム等の直接の作成担当ではない教員の先進地視察も兼ねて開建高等学校を訪問し、「おにぎりプロジェクト」のキックオフの様子などを視察させていただいた。

その結果、視察した教員のスイッチが入り、視察メンバーたちが企画・立案し、生徒募集や運営もすべて行うなど、これまでとは仕事の取組方が変わってきた。また、教員は、生徒たちの学びの環境づくり、すなわち「裏方」に徹して、生徒たちの自発性を促し、主体性に委ねながらプロジェクトの進行管理をしていくことに努めた。わからないことなどは、先進校である浜松学芸高等学校からの支援も受けながら対応して、プロジェクトを進めてきた。何よりも、本校の教職員が、楽しみながらこのプロジェクトに参画していたことが非常に大きかったと思う。

このプロジェクトを通じて生徒に「競争力」を身に付けさせたいと考えていたことから、複数名のチームでのエントリー形式をとった。参加生徒（30名）の中には、異学年でチームを構成する者や、いわゆる各教科の学びが苦手な生徒も多数参加していたのは嬉しい驚きであった。

時間を見つけては検討を重ねたり、自宅で試行錯誤を積極的に繰り返したり、家族や学校の教職員からの試食後の感想を踏まえて改善に努めたり、選考会でのプレゼンで何のメッセージを伝えるかを熱心に議論したり、アンケート調査の結果を分析して改善案を練ったりするなど、生徒が主体的に取り組む場面が多くみられた。

日頃の教科の授業では積極性があまり見られない生徒も、このプロジェクトではチームのリーダーとして積極的に意見を出したり、チームとしての意見をまとめたりして、普段の学校生活では見られない、生徒たちの別の一面を見ることができ、また生徒たちの隠れたポテンシャルが表出したプロジェクトでもあった。

令和7年度は、本校が開催校（主催者）となる。単なる参画とは違う意味での新たなチャレンジとなるが、このプロジェクトは教職員にとっての「探究活動」でもあり、引いては生徒の学びに生かされるものと考えている。



画像・写真

- 1 列目：(左) 生徒募集のチラシ、(右) 自宅で試行錯誤
 2 列目：(左) 調理する様子、(右) 浜松学芸高等学校での決勝大会
 3 列目：優勝チームのおにぎりレシピを本校食堂にて再現・販売

ウ 地元のサッカークラブチーム×行政×企業の連携によるデータ分析ワーク

地元のサッカークラブチーム「ギラヴァンツ北九州」は、地域活性化の一助となっている。その活動内容に関するデータを分析し、更なる地域活性化に向けた新たな価値創出を目指す産官学の連携・協働プロジェクトがある。このプロジェクトは、若者（北九州市立

大学の学生及び本校生徒)によるデータ分析ワークを行うものである。

生徒たちには、

- よい意見を生み出そうとするのではなく、まずは思ったことを言葉にして、対話を通じて視点を広げるきっかけづくりとすること
- データ分析の際に大切な視点やスキルについて学ぶこと

の2点を大切にするように助言した。

データ分析は、これからの社会で必要な基礎的なスキルであり、分析ワークを通じて、生徒たちはその必要性や利点を多く感じたようである。

また、データを基に、生徒が多角的な視点で物事を捉えることの重要性を認識するとともに、異年齢の大学生やファシリテータ役の企業の方(社会人)との「対話」を重ねることによって新たな「発見」に結びつき、様々な刺激を受容する場にもなっていた。



写真 データを基に分析し、意見交換する様子

エ 北九大×こども図書館の連携によるトークイベントへの参加

廣川CNの紹介により、北九州市立大学とこども図書館の連携によるトークイベントに参加する機会を得た。

このイベントは、「学ぶこと」をテーマに登壇者6名が書籍を選定し、6名がその書籍について語り、その後に参加者間でトークセッションを行うものである。

本校からは、本好きな生徒、対話の場を好む生徒、逆に対話が苦手だからこそチャレンジしたいという生徒など、タイプが異なる7名が参加した。

このイベントでの目標は、自分と異なる考え方を「発見する力」を意識して、他者の考えを受け入れること、その考えを掘り下げる質問をすること、自分の考えをアウトプットすることの3点である。

イベント後の振り返りでは、「掘り下げる質問を考えることが難しかった。もっとしっかりと他者の話を聞く必要があった。」など、他者との関わりの中での気づきもあれば、「もっとできていると思っていたが、自分自身のことを他者に伝えることの難しさを体感した。語彙をもっと増やしたい、伝え方をスキルアップしたい。」など、現在のスキルレベ

ルの再認識などにつながり、今後の課題設定の一助となった。



オ 「こども図書館魅力発見クイズラリー」のイベント企画及び運営

生徒3名がこども図書館の魅力発見イベントを開催した。イベントの企画から当日の運営までを担い、来館した他者（子どもや保護者）と上手にコミュニケーションを取りながら、クイズラリーのイベントなどを実施した。

このイベントでの学びの目標は、

- 来館者に「また来たい」と思ってもらえる図書館イベントの実施
- 参加した子どもに楽しく学んでもらうための工夫

の2点である。

この目標を達成するために、生徒は意識的に他者との「対話」に取り組み、都度振り返りながら、次のアクションにつなげていくよう心掛けた。

教職員は、生徒が振り返る際に留意すべき視点のみを提示し、改善への方向づけの支援に徹した。

こうしたサイクルを繰り返していく中で、生徒たちが自分の行動を客観的に振り返ることができるようになり、他者との交流によって得られる学校外での学びの効果を実感することができた。



画像 こども図書館魅力発見クイズラリーで使用した掲示物等

以上に記載した取組は、本校生徒全員が体験・経験するものもあれば、一部の生徒に限ったものもあるが、普段の学校生活では目立たない生徒がイベントを通じて新しい自分の強みやポテンシャルを発見したり、「イベントにまた参加したい」「もっと〇〇してみたい」などの積極性を示すようになったりするなど、ポジティブな変容が多く見られた。

そのため、本校としては可能な限り多様なタイプの「場面」を準備し、生徒が新しい自分に気づき、新たな目標を発見し、主体性の向上につなげることができるよう、更なる機会の拡充に努めたい。

(7) 客観的評価指標「高校魅力化評価システム」等の結果と課題

客観的な評価指標として、令和4年度から、「高校魅力化評価システム」を活用している。学校としてターゲットとすべき指標を見定めることや、魅力向上事業に着手する前後の比較（学年ごと、個人ごと）にも役立っている。

生徒編に関しては、令和4年度に初めて調査した際は大半の項目が全国平均よりも低い結果となっていたが、令和6年度については調査項目の約8割が全国平均を上回る結果となった。

令和4年度比で20ポイント近い伸びが確認できたのは15番（地域の課題の解決方法について考える）、29番（地域の人や課題などにじかに触れる機会がある）、32番（自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある）、81番（今の生活全般の満足度）、82番（普段のあなたの幸福度）である。詳細の分析はこれからであるが、生徒のやる気を学校全体で応援する雰囲気や文化が校内で醸成されており、近隣大学の教授や北九州市立大学の大学生による授業支援、福岡県中小企業家同友会のご協力の下で実施しているインタビューシップなど、「開かれた教育課程」にも力を入れていることから、生徒たちが地域課題に触れる機会が格段に増加していることが寄与していると推察される。

調査項目89番「日本の将来は明るいと思う」については、全国平均44.7%に対して本校は52.3%と高く、この結果は大変興味深い。これからも、生徒たちが未来に明るい希望を抱きつつ、社会に巣立っていくことができるよう、教育内容の充実と教育環境の整備に努めていきたい。

一方で、授業の内容に疑問をもち、根拠を理解するように自分で考え調べること（75番、76番）、科学的な視点から課題解決にあたること（80番）、誰かに言われなくても自分から勉強すること（38番）などについては全国平均よりも5ポイント以上下回っている。これらの結果を見ると、教職員の働きかけや声かけの仕方、生徒の興味・関心をひきつける授業づくりなどが課題と考えられることから、授業改善などに引き続き取り組んでいきたい。

高校魅力化評価システム 結果（一部）【生徒編】

番号	質問項目	R4年度 生徒回答	R5年度 生徒回答	R6年度 生徒回答
90	この学校を中学生にすすめることができる	56.5%	69.9%	72.3%
66	この学校に入ってよかったと思う	70.2%	75.6%	82.9%
20	失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	64.8%	76.1%	79.5%
22	人と違うことが尊重される雰囲気がある	68.3%	78.2%	82.0%
17	本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	75.9%	76.8%	81.0%
29	地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	44.4%	64.6%	63.4%
39	現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	62.4%	64.8%	67.6%
32	自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある	42.2%	57.2%	61.6%
61	地域を対象とした課題探究学習に熱心に取り組んでいる	47.1%	62.2%	59.3%
67	学習を通じて、自分がしたいことが増えている	67.8%	77.8%	73.6%

教職員編に関しては、令和4年度比で大きく数字が伸びている。

30ポイント以上の伸びは、8番（人と違うこと、異なった意見を尊重している）、12番（自分の暮らす地域を外からの視点で考える機会を持てている）、18番（お互いに問いかけあう機会がある）、22番（子どもの自己決定を尊重できている）、29番（自身の資質・向上につながっている）である。

20ポイント近い伸びは、13番（挑戦する人に対して、応援することができている）、15番（自分と異なる立場や役割を持つ人と交流している）、20番（地域の人や課題などにじかに触れる機会を持てている）、28番（授業の質の向上につながっている）、30番（学習意欲が高まった生徒がいる）などである。

教職員編の結果を見ても、校長が目指す「徹底的に開かれた学校づくり」の取組や産官学民との連携体制が強化されていることが教職員の生徒や同僚・他者との関わり方、心理的安全性の確保等によい影響を及ぼしていることが推察できる。生き生きとして学校運営に取り組む教職員の姿が生徒のよいロールモデルにもなっており、引き続き、教職員の挑戦を応援し、全力でサポートする学校運営に取り組んでいきたい。

高校魅力化評価システム 結果（一部）【教職員編】

番号	質問項目	R4年度 教職員回答	R5年度 教職員回答	R6年度 教職員回答
13	挑戦する人に対して、応援することができている。	73.3%	84.0%	93.3%
22	子どもの自己決定を尊重できている。	63.3%	68.0%	93.3%
8	人と違うこと、異なった意見を尊重している。	43.3%	68.0%	76.7%
15	自分と異なる立場や役割を持つ人と交流している。	50.0%	76.0%	76.7%
18	お互いに問いかけあう機会がある。	46.7%	64.0%	76.7%
12	自分の暮らす地域を外からの視点で考える機会を持てている。	26.7%	60.0%	63.3%
20	地域の人や課題などにじかに触れる機会を持てている。	26.7%	44.0%	50.0%
28	授業の質の向上につながっている。	40.0%	68.0%	66.7%
29	自身の資質・向上につながっている。	36.7%	80.0%	66.7%
30	学習意欲が高まった生徒がいる。	46.7%	76.0%	63.3%

また、令和6年度は、探究学習に係る資質・能力を数値化して評価するシステム

「AiGrow」も利用した。この評価については、自己評価に加え、3名の他者（生徒）からの評価も数値化されるため、資質・能力をより客観的に把握することが期待できる（本年度は、年2回（1学期・3学期）のアンケートを実施し、評価の伸び率を比較することで、カリキュラム改善に活用）。

高校魅力化評価システム 結果（一部）【教職員編】

	質問項目	R 4 年度 教職員回答	R 5 年度 教職員回答	R 6 年度 教職員回答
主体性	失敗を恐れずに挑戦することができている。	58.3%	48.0%	63.3%
	目標や当事者意識をもって挑戦することができている。	73.3%	60.0%	70.0%
	自身の挑戦に、周囲を巻き込もうとしている。	40.0%	40.0%	56.7%
	挑戦する人に対して、応援することができている。	73.3%	84.0%	93.3%
	誰かが何かに挑戦しようと思ったとき、手を差し伸べている。	80.0%	84.0%	80.0%
	子どもの自己決定を尊重できている。	63.3%	68.0%	93.3%
協働性	人と違うこと、異なった意見を尊重している。	43.3%	68.0%	76.7%
	ありのままの個人を尊重している。	56.7%	76.0%	80.0%
	自分と異なる立場や役割を持つ人と交流している。	50.0%	76.0%	76.7%
	立場や役割を超えて協働している。	63.3%	68.0%	70.0%
探究性	本音を気兼ねなく発言できる。	26.7%	40.0%	40.0%
	地域に、将来のことや実現したいことを話し合える人がいる。	30.0%	48.0%	40.0%
	生徒に対してじっくりと話を聞き、考える手助けができている。	80.0%	76.0%	83.3%
	お互いに問いかけあう機会がある。	46.7%	64.0%	76.7%
社会性	自分の暮らす地域を外からの視点で考える機会を持てている。	26.7%	60.0%	63.3%
	生徒の関心に合わせて、機会を提供できている。	66.7%	64.0%	83.3%
	地域の人や課題などにじかに触れる機会を持てている。	26.7%	44.0%	50.0%
	地域で生徒を育てるという意識を持っている。	36.7%	52.0%	60.0%
	この学校を中学生におすすめできる。	56.7%	60.0%	53.3%
	この学校に関わってよかったと思う。	76.7%	80.0%	80.0%
	この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる。	66.7%	80.0%	73.3%
	授業の質の向上につながっている。	40.0%	68.0%	66.7%
	自身の資質・向上につながっている。	36.7%	80.0%	66.7%
	学習意欲が高まった生徒がいる。	46.7%	76.0%	63.3%
	業務負担感の軽減につながっている。	0.0%	8.0%	3.3%

3 令和7年度以降の展望

本校が目指すのは「なりたい自分に出会う場所」。つまり、本校に入学してよかった、新しい自分に出会うことができた生徒たちが感じて、人生の次のステージに進んでいくためのしなやかな強さにつなげていくことを目指している。

この3年間の取組を通じて、一定の魅力化・特色化は実現できたと考えるが、産官学民の連携・協働の下に、令和7年度以降も意欲的に取り組んでまいりたい。

(1) 「市高魅力化コンソーシアム」の継続設置

普通科改革支援事業の指定は、令和6年度をもって終了となるが、この3年間の改革の中で一番効果が高かったとの、外部有識者で構成される会議体である。

特に、「市高魅力化コンソーシアム」については、学校改革や魅力向上に向けた「実働部隊」としての位置づけであったことから、教職員とも膝を突き合わせて意見を交わすなど、「社会に開かれた教育課程」の実現に当たって重要な役割を果たしていた。

そのため、「市高魅力化コンソーシアム」については、令和7年度以降も、学校運営と連動する会議体として継続設置していく予定である。

(2) コミュニティ・スクールの導入

令和6年4月に、北九州市教育委員会は、北九州市の教育振興に関する新しい教育大綱を定めたが、地域とのつながりの中で子どもを見守り、支える体制づくりを柱の一つとして掲げている。

このことも踏まえ、令和7年度からは、本校の生徒の学びを地域全体で支える仕組みとして、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）制度を導入する予定である。

社会の変化を踏まえた上で、多様な視点と考えに基づいて「学びとは何か」を協議し、本校の教育方針や活動内容のアップデートに役立ててまいりたい。

(3) 未来を担うデジタル人材の育成（BYODの導入）

本校では、GIGA端末を文房具のように活用し、個別最適な学びを実現している。日々の授業以外にも、クラウドを利用した宿題の提出、自主学習（スタディサプリ）及び部活動での利用など、教育課程内外で活用している状況であり、日常的な連絡手段（Teams、教育クラウドプラットフォームサービス「まなびポケット」）としても使用している。

高等学校学習指導要領では、情報活用能力が「学習の基盤となる資質・能力」に位置づけられており、「情報技術を手段として学習や日常生活に活用できるようにしていくことも重要」とされている。

また、本校は令和6年度に、文部科学省の補助事業「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）」の採択校となっており、高度なICT環境整備等の整備のための補助を受けながら、デジタル人材の育成強化を進めている。

デジタル人材育成に必要な環境として、生徒の主体的な学びを教育課程内外で促進していくため、時間や場所に左右されことなく端末を活用できる環境や、端末を設定・管理する能力を身に付けられる環境を整備する必要があると考える。

そのため、BYODによる1人1台端末環境の整備が最善と考え、令和7年度入学生から導入し、これからの社会を牽引する力を備えたデジタル人材の育成につなげていく。

令和6年度 第1回 市高魅力化コンソーシアム 議事要旨

1 開催日時 令和6年5月13日（月）10時00分～12時20分

2 議題

- （1）北九州市立高等学校の魅力向上事業に係る令和5年度の取組
- （2）令和6年度の教育目標及び年間カリキュラム
- （3）今後の方向性

3 校長あいさつ

- ・皆様のご支援の下、新学科がスタートを切った。今年度は、福岡県の公立高校入試が大きく変わることになるが、追随ではなく、前に出るような形で動き出したい。
- ・子どもの数は圧倒的に減っている。令和6年3月末時点の本市の15歳人口は約8,300人。5年後に10%、10年後に20%、15年後には35%減る見込み。つまり、3,000人減の5千数百人になる。市高の定員が600名なので、5校分の生徒がいなくなるのに匹敵し、このインパクトは非常に大きい。
- ・どんな形で本当に選ばれる学校になるか。生きる力をどんな形で提供できるか。我々の大切なチャレンジである。
- ・授業は教室だけでも、学校だけでもない。市高としては徹底的に学校を開いていくことを宣言している。学校の経営方針についても、皆様のご意見などを踏まえて形作っていききたい。

4 構成員等の主な発言

- ・この数年で市高が激変しており、短期間で変われていることに驚きを感じている。「学校を開く」のはとても素晴らしいが、一方で地域に開いていくとネガティブなこと、ポジティブなこと、一緒にやりましょうなどの様々な意見・提案が寄せられることになる。それらのハンドリング、マネジメント、取捨選択などの仕方については予め考えておいたほうがよいのではないか。
- ・カリキュラム・デザインを考えた時に、「入試」「高校3年間のプログラム」「出口指導」の三位一体が大事。県立高校は、特色化選抜で特色を出せずに苦戦しているところが多いが、市高では大変面白い入試を実施している。中学生に、非常によいメッセージを出している。高校は中学校と違う、大学は高校と違うなどと言われることがあるが、カリキュラムとしてつながっていることが見える化されている。そのまま大学入試で生かせる力なので、大変よい入試方法になっていると思う。
- ・市高の広報は、外部へのPRという意味では面白くて、一定の効果があると思う。一方で、求めるべき一番の効果である「インナーブランディング」、つまり「市高プライド」が高まったのかが気になる。
- ・3年間の流れが重要。他校でも、探究活動の基礎・作法ができていなかったり、自分自身のキャリアと結びつける部分が希薄だったりすると「他人ごと」になってしまう。

- 1年生の時に探究の基軸を押さえ、2年生で探究して、そして最後の評価として入試の結果に結びつかせることが重要である。小論文が書ける、対話型の面接がしっかりできることなども大事だが、3年間を貫くカリキュラム・デザインが必要である。1年生の頃に、キャリアに直接つながるようなカリキュラムがもっとあってもいいのでは。
- ・ 色々な企業の改革において必ず苦勞されているのが抵抗勢力。古き良き時代から変わりがたくないという考えの人が必ずおり、2（積極的）・6（平均的）・2（否定的）の法則のように、何かをやろうとしても2割は反対する人がいたはずである。そういった意味でも、ここまで市高を変えられたことは素晴らしい。
 - ・ 従来からの在校生に対するフォローの在り方と、いわゆる「意識高い系」の1年生のやる気が意図せず摘まれてしまわないかを心配している。1年生の力を引き出しつつも、上級生が嫌味に感じることをないよう、教職員が異学年交流をうまくコーディネートしていくことも必要である。
 - ・ 若い人は人と違うことを嫌がる。しかし、市高では、それぞれが何かスペシャリティを持っていて、いろんなことで頑張っているような、そんな集団になってほしい。
 - ・ 相対化して自分を見つめる機会が重要。「自分は何者か」ということを、自分だけの目線ではなく、外からの目線で見ていく経験が大事である。そのためには、オーナーシップ、主体性、課題をどう設定するか、自分が何を学びたいか。そこに尽きる。徹底的に誰かと対話する機会を設定して、本当に自分がやりたいことを見つめることにつなげてほしい。
 - ・ キャリアにつなげていく時には、自分はなぜそれをしたいのか、課題は何なのかを基に考え、アウトプットの場を作り、「自分はこういう課題をこうやって乗り越えてきた」と自分の言葉で言えるようになると、就活や進学にも非常に有効だと思う。そういう意味では、インタビューシップがキャリア教育によい影響を与えているのではと期待が膨らむ。
 - ・ 社会が大きく変化しており、世の中で求められる力やスキルなどもかなり変わってきている。そのときに、旧来型のいわゆる商業教育がどこまで適応できているのかというところはしっかり検証しなくてはならない。2つの学科を並行して運用するオペレーション上の観点と、社会の変化を踏まえた時に、これからの情報ビジネス科の在り方はドラスティックに考えた方がいいと思う。
 - ・ 情報ビジネス科と未来共創科の住み分けや学科の区別がつきにくくなっていることは課題であると思う。普通科での探究活動自体が、いわゆる商業高校が今までやってきたことを追っている側面もある。これまでの素晴らしい実践・実績があるので、情報ビジネス科でのこれまでのノウハウを未来共創科で活用するのか、それとも情報ビジネス科の方で継続するのかなど、学校としての意思決定が必要だと思う。
 - ・ 一つの学科に統合して、情報ビジネス科で提供してきたものを興味ある生徒にオーダーメイド式に提供するといった、ジェネラリスト的なスキルを身につけてから専門性に移行するのもよいのではないか。
 - ・ 未来共創科1科に統合して、その中に情報ビジネス科の形を残すという形ならば、中

身としては置き換わらないので動きやすいのではないか。

- ・普通科教育の改革がひと段落ついたら、専門教育の改革も必要だと思う。簿記や情報処理系の資格も、一体何のためか。何かの目的を達成するための資格のはずなのに、資格をとることが目的化していないか。そういった視点での専門教育改革も必要だし、そのためにはカリキュラムも変えていく必要があると思う。
- ・生徒の「学校が楽しい」「この学校に来てよかった」という声が重要な広報活動になるのは間違いない。しかし、場数を踏ませることも、3年間を通したスケジュールも必要である。これだけの改革をやったとしても、最終的には根っこ、すなわち教員の意識と教員の指導力が変わらなければ何も変わらない。先生が「怖い」と思いながらもやっている授業は開くべきであり、それを共有していくプロセスも、底辺に流れ続けていくべき一つの学校改革のベースなのではないか。
- ・未来共創科のプロモーションや企業とのコラボレーションも面白いが、他の学校と何が違うのだろうか。もっと独自性を発揮するべきではないか。
- ・各先生が恐怖を感じながらも、新しいミッションに取り組み、生徒たちのために頑張っているところが市高の魅力だと思う。教職員も、管理職も、生徒も、保護者も、共に未来に向かって進歩するということが共有できれば、この学校の魅力になると思った。要は、このコンソーシアム自体に価値がある。この情報を生徒や保護者に見せる必要があり、市長もこの場に来るとよい。
- ・答えがない状況の中では、「一生懸命やっている」というのが答え。先生方が失敗を恐れずにやっていけるとよい。
- ・「持続可能性」とは、変化に対応し続けられるということである。つまり、市立高校が変化に対応し続けられる組織になることが重要である。市も全面的にバックアップしていくので、市高の生徒や卒業生が北九州市にとって必要かつ持続可能なものになるために何をすべきかを大事にしてほしい。

5 校長まとめ

- ・この数年間、学校として新しいチャレンジをしてきた。校長就任後の最初の職員会議で言ったのは2つ。1点目はマーケティングの視点。2点目は、いわゆる中長期の視点を学校に入れるということ。
- ・これらは、企業ではよくやる話だが、学校でやるとなるとなかなか難しい。学校は、「これを変えませんか」の提案に対しては、「では来年から」といった意思決定をしがちである。「変えなければならない」と言っても、「いやいや、来年から」となる。
- ・例えば、ある企業において、今は儲かっている既存の事業と、今後儲かる見込みがない事業があったとする。今後の事業展開を検討する際に、その企業では再び全く同じ事業をやるだろうか。今、市高が置かれているのもそういう状況だと思う。そんな状況下で新しい学校づくりにもう一度チャレンジするとしたらどういう学校を作るのか？その問いに、我々は今向き合っている。
- ・要は、大人の事情とか、今までの様々なことに引っ張られるのではなく、5年後、10年

後、20 年後を見据えて意思決定するべきである。

- ・そういった意味で、何が正解なのか本当に分からないが、いずれにしても我々がやらなければいけないことは、目の前にいる生徒、これから時代を担っていく若者に、どういう力、どういう学びを提供するかということを躊躇せずに考えた上で、どういう学校が必要なのかを考えていくこと。
- ・それが尖らないのなら、市高はいらない。同じような学びをやる学校はほかにもある。どれぐらい思い切ってやっていくかということではないだろうか。
- ・このコンソーシアムは、「潰れそうな企業の会議」ではない。今、市高は非常に伸びている。しかし、伸びているところと伸びていないところがあるのも事実。そして、5 年後、10 年後は本当に分からない。
- ・教育が本当に変わらなければいけないとずっと言われてきたが、本当に変わろうとしているタイミングにあって、我々が先に変わっていくためには何をやるべきか、という問いなのだと思う。引き続き、ご相談させていただきたい。

令和6年度 第2回 市高魅力化コンソーシアム 議事要旨

1 開催日時 令和6年8月19日（月）10時00分～12時30分

2 議題

- (1) 前回会議の論点整理
- (2) 「探究的な学び」の取組状況
- (3) 外部人材との連携、次世代PC等の活用状況
- (4) 令和7年度入学者選抜

3 構成員等の主な発言

- ・入試に当たり、市立高校が求める生徒像を明確に伝えて、対外的に広く発信することで、中学生が「あんな風になりたい」・「ここで学びたい」と思ってくれるとよい。
- ・「探究」については、総探やイチプロの時間だけで取り組むことではない。各教科でも、「探究」に火をつける声掛けなどが重要である。
- ・生徒の内発的動機づけにつなげるには、教員が「種」を与え続けることが大事であり、「探究」の時間を超えて、生徒にフィードバックすることが必要である。
- ・生徒の主体性の維持には、わくわく感が大事であり、教員の役割が鍵になる。生徒に役割を与えることや価値づけも重要である。また、生徒自身が、現在取り組んでいることに意義を感じられるかも影響する。授業で学んでいることが実際に社会に役立っていることを実感できることがモチベーションにもつながるはずなので、「探究」で学んだことを活かして社会人として活躍しているOB・OGと出会い、交流できる機会を作れば、前向きに「探究」に取り組む生徒が増えるのではないかな。
- ・商業・工業・農業などの専門高校の「探究」は、ノウハウや資源がない普通科のよりも圧倒的に面白い。情報ビジネス科がなくなっても、商業科のこれまでの実績や資源はぜひ有効に活用してほしい。北九州市の企業とのコラボモデルなどを市高から出してほしい。
- ・入試については、思い切った対応で、よいと思う。もちろん部活も応援するが、部活だけをしに来るのではなく、学びながら部活をするというのが重要で、生徒たちには部活動の経験をどう社会に還元するのかをしっかりと意思表示してもらいたい。
- ・アントレプレナーシップ教育やキャリア教育なども大事だが、目的（ゴール）や到達度をきちんと設定して、今後のキャリアや進路への適切に接続してほしい。学校がすべて用意するようなことだと、生徒は「経験するだけ」になる恐れがある。それぞれの経験がどんな風にキャリアに影響を与えるのか、どんな進路を目指したいと思うのかなどの意味付けや、「接続」の部分に時間を十分に割く必要がある。一人一人が自分の将来を考える機会は、絶対に外してはいけない。
- ・教育課程に閉じない取組を進めるためには、企業など、外部とのつながりが非常に大事であるが、生徒自身が何に興味を持っているのかがわからない状況なのではないかな。例えば、生徒がiPadでニュースを読む時間をとってデータ化してみると、生徒が関心

を持っている分野が把握できるのではないか。そういった工夫も一案である。

- ・地域には課題がたくさんある。市特有の課題については、行政が関われる部分が多いはずなので、事例などを見せて実践させると効果がより高まると思う。
- ・探究学習についてのフォローアップが十分にできていないように思う。しかし、1人の教員が200名の生徒全員をフォローアップするのも無理だろう。AI(チャット GPT)などのテクノロジーを駆使したフィードバックの仕組みを作るのもよいのでは。

令和6年度 第3回 市高魅力化コンソーシアム 議事要旨

1 開催日時 令和6年11月25日(月)10時00分～12時00分

2 議題

- (1) 前回会議の論点整理
- (2) スクール・ポリシーについて
- (3) 魅力化評価アンケートについて
- (4) 令和7年度入学者選抜

3 構成員等の主な発言

- ・コンセプトブックは楽しそうな印象だが、スクール・ポリシーは固い。バランスが難しいと思うが、中学生の心に刺さるような形がよいのではないか。
- ・アンケート調査とは、何かしらの気づきを得て、アクションに移すためのものである。期待値と満足度のギャップを探っていくと、本当の課題が見えてくるのではないか。
- ・主体性や協働性に係る項目の点数が低いことは、学び方などの情報を学校から生徒に与えすぎているのではないか。トップダウンでは主体性は伸びない。生徒自身がしっかり悩むことが必要で、本当に困ったときに必要な助言が適宜もらえる環境を整えることが重要である。
- ・生徒のみならず、教員の主体性を育成することも必要である。生徒や教職員が挑戦できる環境をどう作っていくのかが、主体性につながってくる。
- ・「日本の将来は明るい」と回答した生徒が多かったのは驚きで、大変興味深い。
- ・スクール・ミッションやGP(グラデュエーション・ポリシー)は、教職員に深く浸透していく必要がある。それが市高のブランド化にもつながる。
- ・アンケートを行うと、どうしても結果の良し悪しに着目しがち。その視点だけで結果を見ると思考が停止してしまう。なぜギャップが生じているのかなどをしっかりと意識して結果を分析することで、よい組織になっていけるはずである。
- ・入試は、最大の対外的なメッセージである。入試でのグループワークの課題やグループ面接の質問の検討に当たっては、AP(アドミッション・ポリシー)の内容を尋ねるような質問をぜひ入れていただきたい。部活をやりたくて志願する生徒もかなりいると思うが、部活動を通じて、市高のAPに関する項目を自分の中でどう伸ばせたのかなどをあぶり出して、自覚・意識がある生徒が採用できるとよい。
- ・スクール・ポリシーを拝見すると、「共創する力」にかなりの重みが置かれている。令和7年度入試での面接の仕方を見ると、個の強さを重視するイメージがある。特にC方式は、人数の割合が大きいので、集団に対する意識が強くない生徒ばかりになってしまうのではと懸念する。少しでも工夫できるのなら、他者への関心がしっかりある生徒が採用できるようにした方がよいのではないか。
- ・令和7年度入学者選抜に係る資料を読むと、APに示されているような「探究活動を頑張る生徒が欲しい」という思いが十分かつうまく表現できていないと感じる。

令和6年度 市高魅力化コンソーシアム 構成員名簿

(区分内で五十音順・敬称略)

◎：座長 ○：副座長

区分	氏名	所属
学識経験者	◎ なか お もと 中尾 基	国立大学法人 九州工業大学 工学研究院基礎科学研究系 教授
	まなべ かずひろ 眞鍋 和博	公立大学法人 北九州市立大学 地域創生学群 教授
企業関係者	やま い たかひろ 山井 高広	日本政策金融公庫 北九州支店 国民生活事業 事業統轄
	たかむら けん じ 高村 賢治	九州電力（株）北九州支店 副支店長 兼 企画・総務部長
民間関係者	○ ふくいずみ あきら 福 泉 亮	Nature & KOKOROZASHI アルビレオ 代表 北九州市立ユースステーション スタッフ
	なか じ こう た 中治 航太	小野建株式会社 管理統括本部 総務部 前・GZ キャピタル株式会社 北九州イノベーションセンター事業部
	ひ だ ひかり 肥田 光	有限責任監査法人トーマツ ジュニアスタッフ 前・ReCITAL 株式会社 福岡支店長
行政関係者	かしわ ぎ か な こ 柏木 佳奈子	北九州市政策局 政策部 政策課 Z世代課長
	うす き さち こ 臼木 祐子	北九州市教育委員会 次世代教育推進部 次世代教育推進課長

カリキュラム等コーディネーター

北九州市立大学 地域創生学群 准教授 ひろかわ ゆう じ
廣川 祐司

探究学習支援コーディネーター

西南女学院大学 非常勤講師 おお ぼ まさ み
大庭 正美

広報魅力化コーディネーター

YK STORES（株）代表取締役 よし だ かずなお
吉田 一直

令和6年度 第1回

北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会 議事要旨

1 開催日時 令和6年7月8日（月）10時00分～12時00分

2 議題

- （1）北九州市立高等学校の魅力向上事業に係る令和5年度の実施計画
- （2）令和6年度の教育目標及び年間カリキュラム
- （3）今後の方向性

3 校長あいさつ

- ・学校という組織・文化を変えることにはどうしても抵抗感があると思う。新しくやる、ゼロから創り出したときに、プレイヤーが変わるので、今までの延長線上ではない環境を敢えて作っていった。そういう意味では、令和5年度は学校カルチャーが一番大きく変わった1年だったと思う。
- ・教員も工夫して、知恵をしぼって、生徒のため、そして学校全体を盛り上げるために動いている。大人のそういう空気感を生徒たちは見ている。
- ・コンセプトブックに「なりたい自分に出会うための冒険が今始まる」と書いているように、高校3年間で「なりたい自分」に生徒が気づき、自分自身で驚いてほしい。そのためのカリキュラム等を作り、学びも含めた市高らしさにつなげたい。
- ・戸畑商業高校として始まった本校を、令和7年度から、未来共創科に一本化する。これから、スクール・ポリシーやカリキュラムなど、新たな挑戦をしていくことになるので、今後も本校の魅力化に力をお貸しいただきたい。

4 委員等の主な発言

- ・市高の魅力化は非常に革新的かつチャレンジング。大人たちが楽しんでいて、大きな輪が出来上がりつつある印象を受ける。
- ・大人の誰がやるかは非常に重要だと思う。しかし、話を聞いていると、リーダーがまず変わることによって大人集団が変わり、それを見た生徒たちが変わるといった階層性があるように感じた。大人が楽しむことに非常に大きな意味があり、誰がどう変わり、そこからどう伝わっていくかが組織を変えるためには非常に大きな意味を持つ。
- ・大学入試制度も大きく変わり、国公立問わず、点数だけでは判断できない、魅力ある学生を求める大学が増えており、市高も同様に様々な取り組みをしているよく分かった。中学生が一生懸命頑張ってきたもの、勝ち負けだけでなく活動を通して身に付けてきたものを、入試で評価する仕組みづくりに期待したい。
- ・スピード感を持って入試改革をやっているのは理解できるが、変更点などについては、変更理由なども含めて、中学校や中学生に余裕をもって説明するようお願いしたい。
- ・市高出身者が活躍している未来像に期待する一方で、未来共創科1期生の2年後のゴール設定（出口保証のイメージ化）が重要である。
- ・先生方の努力によって、生徒のスパイラルアップにつなげていただきたい。

- ・ 高校の3年間は自分の基礎をつくる大事なところ。大学では、かなり専門性によって進路が決まるが、高校は伸びしろの広いところである。そういう意味でも、市高に期待するものは大きい。学習の成果は3年後にしか分からないが、学習成果をどう考えるかは難しい。50代や60代になって初めて出てくることもある。限界はあるが、1つ1つのステップで考えていただきたい。企業と連携・協働した取組など、よく話し合っていていただき、よい方向性を見つけてほしい。

令和6年度 第2回

北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会 議事要旨

1 開催日時 令和6年10月23日（水）13時00分～15時00分

2 議題

- (1) 前回会議の論点整理
- (2) 「探究的な学び」の取組状況
- (3) 外部人材との連携、次世代 PC 等の活用状況
- (4) 2学期以降の動き
- (5) 高校魅力化評価システムの結果

3 委員等の主な発言

- ・発表の機会が多数あっても、やりっぱなしになりがち。大人からのフィードバックや十分な振り返りが行われなかったり、発表疲れなども起こりうる。大人からのフィードバックを重要視してほしい。
 - ・周囲との関わりが苦手な生徒や不登校生徒など、多様な生徒へのフォローの視点があるとよい。
 - ・個別の学びの蓄積方法、個々の学びの様子を教員が一元把握・共有する仕組みや、生徒のセルフチェック法などは今後の課題と感じる。評価の仕方は十分に研究を。
 - ・夏休みに行う探究活動等の単位が認められる仕組みがあるとよい。
 - ・特色化選抜の実績点として、生徒会や部活動の役職経験などが列挙されているが、各学校で実情や選定方法が違うので、必ずしも同じ条件とは言えない。役職経験が加点されるなどの情報については、余裕を持った周知が必要。
 - ・部活動の大会やコンクールのメンバーも、顧問が悩み抜いて決めている。特色化選抜における加点方式は、教育課程外を評価する意図で設定されたのだと思うが、メンバー登録の有無でなく、それまでの過程を評価してほしい。学校が生徒の資格等をすべて把握しているわけではないので、自己申告や面接で、高校側が確認する方法も検討してみてもどうか。
 - ・「高校魅力化評価システム」は、県や全国との比較ができるところがよい。こういった調査を卒業生に対して行くと、高校時代にあったらよかった学びや活動が見えてくるし、本音が聞けると思う。
 - ・「高校魅力化評価システム」において、将来を明るく思っている生徒が多いのが印象的である。今後、未来共創科がトップランナーとしてけん引し、頑張っていってほしい。
 - ・探究的な学びの充実に当たり、高校が外部人材との連携・協働に継続的に取り組んでいることがわかった。大人が変わっていく、先生が新しいものに出会って知っていくことは、生徒に対する力強いメッセージになる。
- 一方で、中学校側からみると、「入試」というハードルがあることから、情報共有は重要である。高大連携と同様に、義務教育から後期中等教育へ移る中での1つのつながりとして、中高連携についても考える必要がある。

令和6年度

市高魅力化コンソーシアム

北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会 合同ワークショップ 議事要旨

1 開催日時 令和7年2月21日（金）13時～15時

2 議題

- (1) 前回会議論点整理
- (2) 令和7年度入試について
- (3) これからの市高のあるべき姿とは

3 構成員・委員の主な発言

- ・大学入試や会社においても、コミュニケーション能力や自分を表現する力が求められている。今度のOECDのPISAも、答えがなく、過程を問うものになると聞いた。市高の入試でもそういう力を評価することはよい。
- ・APで明確化された「市の願い」がよく出た、「攻めている」入試であったと思う。
- ・入試を入試で終わらずに、教材として活用するとよい。
- ・外部の人が評価者になっているのも斬新である。
- ・一方で、どのように「自分」を表出させるかが難しい試験でもあり、評価者の多様性にも左右されうる点については、今後の課題と感じる。
- ・入試問題を発想する力が素晴らしい。今後、人事異動なのでプレーヤーが変わってもつながっていくシステムの構築が大切である。
- ・入試グッズを持って市高生が中学校に出向き、一緒に実践する取組があってもよい。
- ・志願倍率が上がったということは、中学生が市高に何かを求めていることを意味する。そこにこそ、答えがあるのではないか。中学校の先生だけではなく、中学生自身が何を求めて（どんなイメージをもって）、市高を受験しているのかを調べてみるのも重要である。
- ・教育は指導（Teaching）から伴走（Coaching）に変化しているのだから、教職員はこれまでの教え方から抜け出すべきであり、そのことを保護者も学ぶべきである。
- ・教員の「探究力」が試されており、教員自身が更新していかないと枯渇してしまう。
- ・高校3年間を通して学び、問い続け、高校の3年間で何らかの問いを見出して卒業する。探究で発表会して終わりではない。市高には「問い」に出会える学校であってほしい。そして10年後に「こんな研究をしています」となるとよい。
- ・世界を担う力を育てる学校としての持続可能なシステムを構築できるかどうか問われている。
- ・「一般入試の勉強だけだとこれからの時代は生き残れない」と、感度の高い中学生が市高を選んでくれている事実期待したい。市高には他校をリードする学校であってほしいし、市高の特色化選抜のやり方等が県域全体の底上げにもつながってほしい。

4 まとめ（北九州市立高等学校）

- ・赴任してからの3年間で様々な取組ができたことに感謝申し上げる。しかし、ある意味で、勝負はこれからである。
- ・北九州地区の1/3の高校は定員割れしており、大変厳しい状況である。
- ・15年後の本市の15歳人口は-36%（3,000人減）となる。この減少幅は恐らく日本で最大の減少になるだろう。
- ・それくらいのインパクトがある中で、本市が唯一の市立高校を持つ意味・意義は何か。中途半端な存続は我々の命題ではなく、市にとって絶対に必要な学校を、そして生徒が「ぜひ行きたい！」と願う学校を作るべきである。
- ・校長になって最初の職員会議で伝えたのは、マーケットを見て学校経営するということと、中長期の視点に基づく学校運営である。来年度1年間の動き方で、この学校の将来は決まると思っている。
- ・その上で、北九州市教委に問いたい。本当にやるつもりはあるのか？高校採用もせずに、1校を残すことができるのか？決めきれなければ、市や市教委は市高の存続を諦めたほうがよい。それくらいのマーケット変化が起こっているということを認識した上で、北九州市が本市の子どもたちのために「絶対必要な学校なのだ！」と腹をくくれるかどうかが問われている。
- ・次につながる1年を、腹をくくって戦っていく所存であるので、ぜひ見守っていただき、引き続き応援していただきたい。

令和6年度 北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会 委員名簿

(区分内で五十音順・敬称略)

◎：委員長 ○：副委員長

区分	氏名	所属
学識経験者	◎ こんどう みちあき 近藤 倫明	(一財) 大学教育質保証・評価センター 代表理事 元・北九州市立大学 学長
	いく た じゅんいち 生田 淳一	国立大学法人 福岡教育大学 副理事 兼 教育心理研究ユニット教授
企業関係者	なが の けい 永野 恵	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株) 政策研究事業本部 社会政策部 副主任研究員
	は た の たかし 羽田野 隆士	北九州商工会議所 専務理事
民間関係者	あそ う こうじ 麻生 浩二	北九州市立高等学校 PTA会長
行政関係者	○ よしはら はるひこ 吉原 治彦	北九州市立中学校長会 事務局次長 北九州市立千代中学校 校長

カリキュラム等コーディネーター

北九州市立大学 地域創生学群 准教授 ひろかわ ゆうじ
廣川 祐司

【全校生徒結果】 R6年度 高校魅力化評価アンケート結果

	全校			全校内での前年度比較				県平均			県との比較			全国平均			全国との比較		
	R4	R5	R6					R4	R5	R6				R4	R5	R6			
	543人	418人	516人	-	R5<R6	5p以上UP	5p以上down	3254人	4151人	1851人	県<本校	5p以上向上	5p以上down	103951人	119657人	90467人	全国<本校	5p以上向上	5p以上down
回答者数	110項目中の○の数				43/110	8/110	4/110	110項目中の○の数			71/110	30/110	5/110	110項目中の○の数			59/110	11/110	14/110
【主体性に関わる学習活動】	43.00%	54.10%	51.90%	-2.2pt	-	-	-	46.90%	50.40%	51.40%	○	-	-	50.90%	51.30%	52.50%	-	-	-
5.自主的に調べ物や取材を行う	62.80%	77.50%	74.20%	-3.3pt	-	-	-	68.40%	73.50%	73.30%	○	-	-	69.50%	71.90%	73.10%	○	-	-
6.学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	23.20%	30.60%	29.70%	-0.9pt	-	-	-	25.40%	27.30%	29.50%	○	-	-	32.40%	30.70%	31.90%	-	-	-
【協働性に関わる学習活動】	66.20%	82.40%	74.60%	-7.8pt	-	-	▼	69.80%	71.30%	69.60%	○	-	-	72.80%	74.50%	76.30%	-	-	-
7.グループで協力しながら学習や調べものを行う	81.80%	90.40%	90.90%	0.5pt	○	-	-	80.70%	81.80%	81.10%	○	○	-	82.90%	83.40%	85.20%	○	○	-
8.活動、学習内容について生徒同士で話し合う	86.40%	90.70%	88.60%	-2.1pt	-	-	-	86.90%	87.90%	82.50%	○	○	-	87.20%	87.70%	88.40%	○	-	-
9.活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う	35.50%	-	48.40%	-	-	-	-	42.90%	41.60%	38.40%	○	○	-	50.70%	49.50%	51.80%	-	-	-
13.生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	61.10%	66.00%	70.50%	4.5pt	○	-	-	68.50%	65.40%	63.00%	○	○	-	70.40%	66.80%	67.30%	○	-	-
【探究性に関わる学習活動】	62.40%	63.80%	69.60%	5.8pt	○	○	-	70.30%	64.80%	63.30%	○	○	-	72.40%	67.20%	67.10%	○	-	-
10.自分の考えを文章や図表にまとめる	56.50%	64.10%	59.90%	-4.2pt	-	-	-	69.20%	66.20%	65.20%	-	-	▼	69.30%	66.10%	65.70%	-	-	▼
11.話し合った内容をまとめる	73.50%	-	81.60%	-	-	-	-	77.40%	74.40%	81.60%	-	-	-	79.00%	78.70%	77.70%	○	-	-
12.活動、学習のまとめを発表する	57.10%	63.40%	67.20%	3.8pt	○	-	-	64.40%	60.70%	56.30%	○	○	-	69.00%	64.90%	64.80%	○	-	-
【社会性に関わる学習活動】	39.40%	53.10%	47.90%	-5.2pt	-	-	▼	43.70%	45.40%	47.50%	○	-	-	49.50%	47.80%	48.50%	-	-	-
14.地域の魅力や資源について考える	34.40%	-	44.20%	-	-	-	-	34.50%	35.10%	44.20%	-	-	-	46.20%	47.50%	49.30%	-	-	▼
15.地域の課題の解決方法について考える	34.40%	54.80%	52.30%	-2.5pt	-	-	-	39.60%	40.60%	45.30%	○	○	-	48.90%	46.10%	48.20%	○	-	-
16.日本や世界の課題の解決方法について考える	49.40%	51.40%	47.30%	-4.1pt	-	-	-	57.10%	52.20%	50.70%	-	-	-	53.50%	49.60%	48.40%	-	-	-
【主体性に関わる学習環境】	79.20%	86.40%	87.80%	1.4pt	○	-	-	83.40%	87.40%	86.90%	○	-	-	84.30%	87.00%	88.10%	-	-	-
20.失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	64.80%	76.10%	79.50%	3.4pt	○	-	-	73.60%	77.30%	78.60%	○	-	-	76.50%	79.10%	80.50%	-	-	-
21.挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	88.00%	-	92.80%	-	-	-	-	90.40%	93.30%	92.80%	-	-	-	90.00%	92.30%	92.80%	-	-	-
26.自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	84.90%	93.30%	91.90%	-1.4pt	-	-	-	87.80%	91.40%	90.80%	○	-	-	88.70%	90.80%	91.80%	○	-	-
33.目標や当事者意識を持って挑戦している人がある	76.40%	-	85.30%	-	-	-	-	81.10%	88.50%	85.30%	-	-	-	80.60%	84.70%	85.80%	-	-	-
35.周りの大人は、自分に関わることにについて自分で決めることを尊重してくれる	81.80%	89.70%	89.30%	-0.4pt	-	-	-	84.30%	89.80%	90.20%	-	-	-	85.80%	89.90%	90.90%	-	-	-
【協働性に関わる学習環境】	67.80%	76.90%	80.20%	3.3pt	○	-	-	76.00%	77.70%	78.50%	○	-	-	75.80%	75.60%	77.60%	○	-	-
22.人と違うことが尊重される雰囲気がある	68.30%	78.20%	82.00%	3.8pt	○	-	-	79.90%	81.90%	85.00%	-	-	-	78.70%	81.60%	82.90%	-	-	-
23.ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	71.30%	-	83.70%	-	-	-	-	82.10%	84.60%	83.70%	-	-	-	81.50%	84.70%	85.70%	-	-	-
27.自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	77.50%	-	88.20%	-	-	-	-	83.20%	88.60%	90.40%	-	-	-	83.40%	85.30%	86.50%	○	-	-
28.立場や役割を超えて協働する機会がある	67.00%	80.40%	78.70%	-1.7pt	-	-	-	72.40%	77.90%	74.90%	○	-	-	72.80%	76.10%	77.80%	○	-	-
30.人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	55.10%	72.00%	68.40%	-3.6pt	-	-	-	62.50%	65.10%	65.90%	○	-	-	62.40%	63.20%	65.60%	○	-	-
【探究性に関わる学習環境】	73.90%	81.80%	82.00%	0.2pt	○	-	-	77.90%	81.10%	82.30%	-	-	-	78.10%	81.10%	82.50%	-	-	-
17.本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	75.90%	76.80%	81.00%	4.2pt	○	-	-	81.50%	82.00%	81.10%	-	-	-	81.70%	82.90%	83.30%	-	-	-
18.将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	79.00%	83.00%	82.40%	-0.6pt	-	-	-	77.60%	80.50%	82.00%	○	-	-	78.50%	81.20%	82.80%	-	-	-
24.周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる	76.80%	90.20%	89.00%	-1.2pt	-	-	-	82.90%	87.30%	89.20%	-	-	-	85.10%	88.20%	89.60%	-	-	-
31.お互いに問いかけあう機会がある	69.20%	-	78.10%	-	-	-	-	70.80%	74.70%	78.10%	-	-	-	72.20%	75.40%	77.90%	○	-	-
36.生徒の意見が学校での意思決定に反映される雰囲気がある	68.50%	77.30%	79.70%	2.4pt	○	-	-	76.70%	75.70%	78.00%	○	-	-	73.20%	73.70%	76.00%	○	-	-
【社会性に関わる学習環境】	55.20%	63.70%	68.60%	4.9pt	○	-	-	58.40%	57.90%	63.20%	○	○	-	63.10%	61.10%	64.00%	○	-	-
19.地域から大切にされている雰囲気を感じる	72.90%	-	81.60%	-	-	-	-	73.50%	75.10%	81.60%	-	-	-	75.20%	79.60%	81.70%	-	-	-
25.地域の人や課題など、興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる	64.50%	80.40%	77.90%	-2.5pt	-	-	-	69.20%	74.50%	78.00%	-	-	-	73.20%	76.50%	79.20%	-	-	-
29.地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	44.40%	64.60%	63.40%	-1.2pt	-	-	-	47.70%	50.60%	59.20%	○	-	-	56.90%	55.80%	59.10%	○	-	-
32.自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある	42.20%	57.20%	61.60%	4.4pt	○	-	-	49.00%	49.20%	56.70%	○	-	-	55.30%	54.00%	57.00%	○	-	-
34.地域に、尊敬している・懂れている大人がいる	51.90%	52.60%	58.50%	5.9pt	○	○	-	52.60%	52.20%	53.80%	○	-	-	55.10%	52.80%	54.70%	○	-	-

【全校生徒結果】R6年度 高校魅力化評価アンケート結果

	全校			全校内での前年度比較				県平均			県との比較			全国平均			全国との比較		
	R4	R5	R6					R4	R5	R6				R4	R5	R6			
回答者数	543人	418人	516人	-	R5<R6	5p以上UP	5p以上down	3254人	4151人	1851人	県<本校	5p以上向上	5p以上down	103951人	119657人	90467人	全国<本校	5p以上向上	5p以上down
	110項目中の○の数				43/110	8/110	4/110	110項目中の○の数			71/110	30/110	5/110	110項目中の○の数			59/110	11/110	14/110
【主体性に関わる自己認識】	65.60%	70.40%	70.00%	-0.4pt	-	-	-	66.80%	67.80%	65.30%	○	-	-	68.40%	67.80%	68.50%	○	-	-
51.自分にはよいところがあると思う	71.30%	76.60%	78.50%	1.9pt	○	-	-	75.80%	79.00%	76.20%	○	-	-	75.20%	77.80%	79.00%	-	-	-
52.私は、自分自身に満足している	52.70%	50.70%	58.90%	8.2pt	○	○	-	53.60%	54.40%	54.70%	○	-	-	54.50%	54.60%	56.50%	○	-	-
39.現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	62.40%	64.80%	67.60%	2.8pt	○	-	-	71.00%	73.70%	68.60%	-	-	-	73.30%	72.80%	72.40%	-	-	-
40.目標を設定し、確実に行動することができる	63.70%	71.10%	66.10%	-5.0pt	-	-	-	60.00%	59.60%	58.30%	○	○	-	61.90%	60.20%	60.90%	○	○	-
53.自分で計画を立てて活動することができる	58.90%	-	63.60%	-	-	-	-	59.50%	57.70%	55.00%	○	○	-	63.10%	59.90%	60.40%	○	-	-
37.うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む	77.50%	80.10%	77.10%	-3.0pt	-	-	-	76.60%	76.90%	72.60%	○	-	-	78.00%	76.60%	76.80%	○	-	-
47.忍耐強く物事に取り組むことができる	72.40%	78.90%	78.30%	-0.6pt	-	-	-	71.40%	70.20%	67.60%	○	○	-	72.90%	69.50%	69.60%	○	○	-
【協働性に関わる自己認識】	72.90%	81.90%	77.80%	-4.1pt	-	-	-	75.80%	76.40%	76.20%	○	-	-	76.20%	77.30%	77.80%	-	-	-
43.自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	93.20%	95.50%	94.40%	-1.1pt	-	-	-	92.90%	93.50%	91.80%	○	-	-	92.90%	93.10%	93.10%	○	-	-
42.相手の意見を丁寧に聞くことができる	89.10%	92.80%	90.90%	-1.9pt	-	-	-	89.50%	88.60%	88.50%	○	-	-	90.10%	89.10%	88.90%	○	-	-
49.自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	63.70%	68.70%	71.30%	2.6pt	○	-	-	68.70%	69.10%	68.90%	○	-	-	69.30%	69.50%	69.50%	○	-	-
50.友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	54.10%	-	58.90%	-	-	-	-	58.20%	56.40%	55.80%	○	-	-	58.20%	58.10%	58.90%	-	-	-
44.共同作業だと、自分の力が発揮できる	64.50%	70.80%	73.40%	2.6pt	○	-	-	69.90%	68.60%	67.20%	○	○	-	70.70%	69.20%	69.40%	○	-	-
【探究性に関わる自己認識】	61.10%	67.40%	65.20%	-2.2pt	-	-	-	68.80%	69.20%	65.20%	-	-	-	70.20%	69.20%	69.50%	-	-	-
38.家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	54.70%	58.10%	48.80%	-9.3pt	-	-	▼	66.60%	66.10%	53.80%	-	-	-	70.30%	67.60%	67.20%	-	-	▼
61.地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる	47.10%	62.20%	59.30%	-2.9pt	-	-	-	47.00%	48.80%	48.10%	○	○	-	52.80%	51.10%	54.00%	○	○	-
67.学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている	67.80%	77.80%	73.60%	-4.2pt	-	-	-	79.10%	79.70%	77.00%	-	-	-	80.50%	80.60%	81.60%	-	-	▼
45.情報を、勉強したことや知っていることと関連づけて理解することができる	71.50%	75.80%	77.10%	1.3pt	○	-	-	81.70%	83.10%	80.40%	-	-	-	82.10%	82.20%	81.80%	-	-	-
46.勉強したものを実際に応用してみる	56.70%	63.90%	63.60%	-0.3pt	-	-	-	68.10%	68.10%	63.30%	○	-	-	68.40%	67.30%	67.00%	-	-	-
41.複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	43.30%	45.50%	44.40%	-1.1pt	-	-	-	52.80%	49.70%	44.90%	-	-	-	51.80%	48.60%	48.00%	-	-	-
54.一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	77.20%	82.30%	80.00%	-2.3pt	-	-	-	79.80%	81.60%	79.80%	○	-	-	79.80%	80.70%	80.90%	-	-	-
48.自分を客観的に理解することができる	70.90%	73.70%	74.80%	1.1pt	○	-	-	75.10%	76.50%	74.20%	○	-	-	76.10%	75.50%	75.40%	-	-	-
【社会性に関わる自己認識】	63.00%	62.10%	63.70%	1.6pt	○	-	-	65.20%	62.90%	60.50%	○	-	-	65.10%	61.90%	61.60%	○	-	-
65.将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	42.50%	41.10%	43.00%	1.9pt	○	-	-	49.00%	43.70%	38.20%	○	-	-	49.60%	43.60%	42.20%	○	-	-
56.地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい	61.90%	61.70%	60.10%	-1.6pt	-	-	-	62.80%	58.30%	55.30%	○	-	-	64.20%	59.70%	58.90%	○	-	-
58.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	71.60%	72.50%	74.60%	2.1pt	○	-	-	67.00%	67.20%	66.70%	○	○	-	67.60%	66.40%	67.10%	○	○	-
57.私に関わることで、変えてほしい社会状況が少し変えられるかもしれない	46.40%	45.50%	45.00%	-0.5pt	-	-	-	55.20%	51.60%	45.50%	-	-	-	54.30%	49.40%	48.00%	-	-	-
62.地域や社会で起きている問題やできごとに関心がある	69.10%	69.40%	70.30%	0.9pt	○	-	-	72.60%	71.00%	68.00%	○	-	-	71.90%	69.90%	69.20%	○	-	-
55.18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う	81.00%	74.40%	73.60%	-0.8pt	-	-	-	85.60%	82.80%	76.70%	-	-	-	83.80%	81.90%	79.70%	-	-	▼
59.地域で起きている課題と世界で起きている課題は、お互いに関連しあっていると感じる	68.90%	-	72.70%	-	-	-	-	72.70%	76.60%	78.40%	-	-	▼	71.30%	72.40%	71.30%	○	-	-
64.将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	62.80%	65.80%	70.90%	5.1pt	○	○	-	72.80%	72.80%	68.90%	○	-	-	72.90%	73.70%	73.60%	-	-	-
63.将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	57.80%	56.70%	59.90%	3.2pt	○	-	-	48.90%	47.00%	52.60%	○	○	-	48.50%	43.40%	45.50%	○	○	-
60.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	54.70%	60.00%	56.80%	-3.2pt	-	-	-	56.80%	56.30%	52.60%	○	-	-	58.70%	55.90%	55.90%	○	-	-
68.自分の将来について明るい希望を持っている	75.90%	73.40%	73.60%	0.2pt	○	-	-	73.20%	72.20%	68.20%	○	○	-	73.00%	71.90%	73.10%	○	-	-
【主体性に関わる行動】	62.50%	67.80%	65.40%	-2.4pt	-	-	-	69.30%	67.00%	63.30%	○	-	-	69.90%	68.00%	69.30%	-	-	-
71.授業で分からないことについて、自分から質問したり、分かる人に聞きにいったりした	76.10%	80.90%	78.70%	-2.2pt	-	-	-	77.80%	76.60%	73.00%	○	○	-	77.70%	77.00%	77.70%	○	-	-
74.授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	49.00%	54.80%	52.10%	-2.7pt	-	-	-	60.80%	57.40%	53.60%	-	-	-	62.00%	59.00%	60.90%	-	-	▼
【協働性に関わる行動】	68.10%	75.80%	74.20%	-1.6pt	-	-	-	73.70%	72.00%	68.90%	○	○	-	72.50%	71.30%	72.10%	○	-	-
72.自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	66.70%	76.30%	74.20%	-2.1pt	-	-	-	71.90%	70.90%	68.80%	○	○	-	71.20%	70.50%	71.70%	○	-	-
73.友人などから、意見やアドバイスを求められた	69.60%	75.40%	74.20%	-1.2pt	-	-	-	75.50%	73.10%	69.00%	○	○	-	73.70%	72.00%	72.50%	○	-	-

【全校生徒結果】

R6年度 高校魅力化評価アンケート結果

	全校			全校内での前年度比較				県平均			県との比較			全国平均			全国との比較		
	R4	R5	R6					R4	R5	R6				R4	R5	R6			
回答者数	543人	418人	516人	-	R5<R6	5p以上UP	5p以上down	3254人	4151人	1851人	県<本校	5p以上向上	5p以上down	103951人	119657人	90467人	全国<本校	5p以上向上	5p以上down
	110項目中の○の数				43/110	8/110	4/110	110項目中の○の数			71/110	30/110	5/110	110項目中の○の数			59/110	11/110	14/110
【探究性に関わる行動】	54.40%	57.20%	52.70%	-4.5pt	-	-	-	68.60%	65.30%	55.70%	-	-	-	68.00%	65.30%	65.80%	-	-	▼
75.授業の内容について、「なぜそうなのか」と疑問を持って、自分で考えたり調べたりした	56.20%	59.30%	54.80%	-4.5pt	-	-	-	71.40%	67.30%	58.50%	-	-	-	70.50%	66.80%	67.80%	-	-	▼
76.公式やきまりを習う時、その根拠を理解するように、自分で考えたり調べたりした	52.70%	55.00%	50.60%	-4.4pt	-	-	-	65.80%	63.40%	53.00%	-	-	-	65.40%	63.80%	63.80%	-	-	▼
【社会性に関わる行動】	43.60%	30.30%	43.70%	13.4pt	○	○	-	38.10%	29.50%	31.40%	○	○	-	41.80%	33.20%	35.20%	○	○	-
69.いま住んでいる地域の行事に参加した	38.30%	41.40%	40.90%	-0.5pt	-	-	-	32.40%	34.40%	33.20%	○	○	-	35.70%	36.10%	36.50%	○	-	-
70.地域社会などでボランティア活動に参加した	30.60%	19.10%	27.10%	8.0pt	○	○	-	26.10%	17.40%	20.90%	○	○	-	31.10%	23.60%	25.20%	○	-	-
77.先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした	62.10%	-	63.00%	-	-	-	-	55.70%	55.10%	63.00%	-	-	-	58.70%	60.40%	62.00%	○	-	-
【学習・その他】	52.00%	69.90%	55.50%	-14.4pt	-	-	▼	64.70%	68.30%	64.10%	-	-	▼	62.60%	67.70%	66.00%	-	-	▼
90.この学校を中学生にすすめてできる	56.50%	69.90%	72.30%	2.4pt	○	-	-	74.20%	74.40%	75.00%	-	-	-	78.10%	78.80%	80.90%	-	-	▼
78.国際社会の課題解決に貢献したい	55.20%	-	51.60%	-	-	-	-	62.90%	65.40%	60.70%	-	-	▼	60.30%	59.20%	54.40%	-	-	-
79.まだ世の中にない新しい技術やサービスを生み出してみたい	53.40%	-	52.70%	-	-	-	-	63.60%	64.50%	52.70%	-	-	-	58.30%	56.30%	52.90%	-	-	-
80.客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることのできる	42.70%	-	45.30%	-	-	-	-	58.20%	60.60%	56.40%	-	-	▼	53.80%	52.40%	50.70%	-	-	▼
【主体性に関わるウェルビーイング】	45.20%	57.70%	59.80%	2.1pt	○	-	-	55.10%	62.20%	60.70%	-	-	-	55.40%	62.60%	63.80%	-	-	-
81.今の生活全般の満足度	40.00%	60.30%	63.00%	2.7pt	○	-	-	56.50%	68.10%	67.00%	-	-	-	57.00%	68.60%	70.30%	-	-	▼
82.普段のあなたの幸福度	40.10%	60.30%	65.10%	4.8pt	○	-	-	57.10%	69.70%	66.80%	-	-	-	57.80%	69.50%	70.80%	-	-	▼
83.現在の日常生活に不安や心配事がない	55.40%	52.40%	51.20%	-1.2pt	-	-	-	51.80%	48.90%	48.40%	○	-	-	51.50%	49.90%	50.40%	○	-	-
【協働性に関わるウェルビーイング】	78.80%	82.30%	84.40%	2.1pt	○	-	-	82.00%	82.70%	83.10%	○	-	-	83.10%	83.90%	85.10%	-	-	-
66.この学校に入ってよかったと思う	70.20%	75.60%	82.90%	7.3pt	○	○	-	83.90%	84.80%	87.50%	-	-	-	85.70%	86.60%	87.90%	-	-	-
84.学校の一員だと感じている	84.30%	90.20%	88.40%	-1.8pt	-	-	-	83.70%	86.00%	85.00%	○	-	-	84.60%	86.10%	87.30%	○	-	-
85.大切な人を幸せにしたり、楽しませたりしていると思う	81.80%	81.10%	82.00%	0.9pt	○	-	-	78.30%	77.20%	76.70%	○	○	-	79.00%	78.90%	80.10%	○	-	-
【探究性に関わるウェルビーイング】	76.10%	77.50%	78.00%	0.5pt	○	-	-	73.40%	74.40%	72.30%	○	○	-	74.50%	74.40%	75.70%	○	-	-
68.自分の将来について明るい希望を持っている	75.90%	73.40%	73.60%	0.2pt	○	-	-	73.20%	72.20%	68.20%	○	○	-	73.00%	71.90%	73.10%	○	-	-
86.自分の将来についての見通し（将来こういう風でありたい）を持っている	78.60%	80.60%	80.40%	-0.2pt	-	-	-	75.40%	77.50%	76.00%	○	-	-	76.50%	76.80%	78.10%	○	-	-
87.自分の将来に向けて大切だと思うことを実行している	73.80%	78.50%	80.00%	1.5pt	○	-	-	71.60%	73.60%	72.80%	○	○	-	74.10%	74.50%	75.80%	○	-	-
【社会性に関わるウェルビーイング】	62.40%	65.20%	65.80%	0.6pt	○	-	-	61.60%	60.50%	59.50%	○	○	-	60.10%	57.90%	59.50%	○	○	-
58.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	71.60%	72.50%	74.60%	2.1pt	○	-	-	67.00%	67.20%	66.70%	○	○	-	67.60%	66.40%	67.10%	○	○	-
60.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	54.70%	60.00%	56.80%	-3.2pt	-	-	-	56.80%	56.30%	52.60%	○	-	-	58.70%	55.90%	55.90%	○	-	-
88.この地域を、将来暮らす場所としてすすめてできる	73.50%	81.60%	79.70%	-1.9pt	-	-	-	78.60%	79.10%	76.80%	○	-	-	68.20%	68.40%	70.20%	○	○	-
89.日本の将来は明るいと思う	49.90%	46.70%	52.30%	5.6pt	○	○	-	43.90%	39.60%	42.10%	○	○	-	46.10%	40.80%	44.70%	○	○	-
平均的な学習時間（授業時間以外）	-	00:56	00:43	-	-	-	-	-	01:57	01:09			-	-	01:38	01:28			-
休日	-	01:27	01:15	-	-	-	-	-	03:36	01:59			-	-	02:55	02:32			▼

【R6- 1 学年結果】

R6年度 高校魅力化評価アンケート結果

	全校			全校内での前年度比較				県平均			県との比較			全国平均			全国との比較		
	R4	R5	R6					R4	R5	R6				R4	R5	R6			
	186人	175人	179人	-	R5<R6	5p以上 向上	5p以上 down	951人	1329人	636人	県 <本校	5p以上 向上	5p以上 down	36905人	42229人	31649人	全国< 本校	5p以上 向上	5p以上 down
	110項目中の○の数				45/110	12/110	18/110	110項目中の○の数			89/110	59/110	2/110	110項目中の○の数			86/110	54/110	4/110
【主体性に関わる学習活動】	40.90%	60.30%	59.20%	-1.1pt	-	-	-	44.20%	50.10%	49.30%	○	○	-	49.30%	50.50%	49.50%	○	○	-
5.自主的に調べ物や取材を行う	62.40%	82.90%	79.90%	-3.0pt	-	-	-	66.10%	74.00%	72.20%	○	○	-	68.50%	71.50%	70.10%	○	○	-
6.学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	19.40%	37.70%	38.50%	0.8pt	○	-	-	22.30%	26.30%	26.40%	○	○	-	30.20%	29.50%	28.80%	○	○	-
【協働性に関わる学習活動】	66.90%	88.00%	83.00%	-5.0pt	-	-	-	70.00%	73.70%	72.50%	○	○	-	73.70%	76.00%	75.90%	○	○	-
7.グループで協力しながら学習や調べものを行う	82.80%	96.60%	97.80%	1.2pt	○	-	-	81.10%	86.20%	82.90%	○	○	-	86.10%	86.90%	86.80%	○	○	-
8.活動、学習内容について生徒同士で話し合う	89.80%	94.90%	92.20%	-2.7pt	-	-	-	88.20%	89.30%	84.70%	○	○	-	89.40%	89.90%	89.50%	○	-	-
9.活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う	30.60%	-	62.00%	-	-	-	-	40.90%	39.50%	44.60%	○	○	-	46.90%	46.40%	46.50%	○	○	-
13.生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	64.50%	72.60%	79.90%	7.3pt	○	○	-	69.80%	68.60%	66.20%	○	○	-	72.60%	68.60%	66.70%	○	○	-
【探究性に関わる学習活動】	64.50%	71.40%	77.80%	6.4pt	○	○	-	71.40%	67.30%	64.90%	○	○	-	73.80%	67.50%	65.60%	○	○	-
10.自分の考えを文章や図表にまとめる	59.10%	72.00%	68.20%	-3.8pt	-	-	-	72.70%	67.40%	66.00%	○	-	-	71.20%	67.10%	64.90%	○	-	-
11.話し合った内容をまとめる	75.30%	-	89.40%	-	-	-	-	79.20%	83.20%	89.40%	-	-	-	81.70%	79.80%	77.50%	○	○	-
12.活動、学習のまとめを発表する	59.10%	70.90%	76.00%	5.1pt	○	○	-	62.50%	64.00%	56.90%	○	○	-	68.60%	64.20%	62.10%	○	○	-
【社会性に関わる学習活動】	33.90%	69.10%	52.90%	-16.2pt	-	-	▼	42.00%	44.40%	43.60%	○	○	-	48.90%	46.60%	45.00%	○	○	-
14.地域の魅力や資源について考える	33.30%	-	48.00%	-	-	-	-	32.10%	42.90%	48.00%	-	-	-	45.60%	45.50%	45.60%	○	-	-
15.地域の課題の解決方法について考える	29.60%	78.30%	57.50%	-20.8pt	-	-	▼	36.00%	38.10%	38.70%	○	○	-	46.70%	44.00%	43.80%	○	○	-
16.日本や世界の課題の解決方法について考える	38.70%	60.00%	53.10%	-6.9pt	-	-	▼	57.90%	50.90%	47.20%	○	○	-	54.50%	49.50%	46.10%	○	○	-
【主体性に関わる学習環境】	79.10%	89.30%	89.80%	0.5pt	○	-	-	83.40%	88.90%	88.00%	○	-	-	85.10%	87.60%	88.20%	○	-	-
20.失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	60.80%	78.90%	82.70%	3.8pt	○	-	-	71.80%	78.30%	79.90%	○	-	-	77.90%	80.40%	80.90%	○	-	-
21.挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	88.20%	-	93.90%	-	-	-	-	91.60%	95.60%	93.90%	-	-	-	91.50%	93.50%	93.80%	○	-	-
26.自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	85.50%	96.00%	92.70%	-3.3pt	-	-	-	87.70%	92.90%	91.00%	○	-	-	89.60%	91.30%	92.20%	○	-	-
33.目標や当事者意識を持って挑戦している人がある	77.40%	-	90.50%	-	-	-	-	80.50%	90.20%	90.50%	-	-	-	80.30%	84.60%	84.50%	○	○	-
35.周りの大人は、自分に関わることにについて自分で決めることを尊重してくれる	83.90%	93.10%	89.40%	-3.7pt	-	-	-	85.30%	91.10%	90.70%	-	-	-	86.30%	90.20%	90.80%	-	-	-
【協働性に関わる学習環境】	66.50%	81.70%	85.50%	3.8pt	○	-	-	76.80%	79.60%	79.40%	○	○	-	76.70%	76.80%	78.00%	○	○	-
22.人と違うことが尊重される雰囲気がある	66.10%	84.00%	85.50%	1.5pt	○	-	-	81.70%	83.90%	86.20%	-	-	-	80.80%	83.80%	84.60%	○	-	-
23.ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	66.70%	-	86.00%	-	-	-	-	81.70%	86.50%	86.00%	-	-	-	83.00%	85.90%	86.80%	-	-	-
27.自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	78.00%	-	89.40%	-	-	-	-	84.40%	90.70%	89.20%	○	-	-	84.50%	86.40%	86.60%	○	-	-
28.立場や役割を超えて協働する機会がある	64.50%	85.10%	87.20%	2.1pt	○	-	-	71.60%	79.10%	76.30%	○	○	-	72.80%	76.80%	77.30%	○	○	-
30.人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	57.00%	76.00%	79.30%	3.3pt	○	-	-	64.40%	67.80%	67.10%	○	○	-	62.30%	64.00%	65.30%	○	○	-
【探究性に関わる学習環境】	72.40%	85.30%	85.10%	-0.2pt	-	-	-	79.10%	82.40%	83.50%	○	-	-	79.00%	82.10%	82.80%	○	-	-
17.本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	72.00%	82.30%	82.10%	-0.2pt	-	-	-	79.70%	83.30%	79.20%	○	-	-	81.80%	83.30%	83.30%	-	-	-
18.将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	75.80%	78.30%	79.90%	1.6pt	○	-	-	77.70%	78.90%	79.70%	○	-	-	76.60%	80.10%	80.70%	-	-	-
24.周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる	75.80%	93.10%	88.80%	-4.3pt	-	-	-	84.60%	89.20%	89.30%	-	-	-	86.20%	89.00%	89.70%	-	-	-
31.お互いに問いかけあう機会がある	69.40%	-	88.30%	-	-	-	-	73.50%	77.30%	88.30%	-	-	-	73.50%	76.10%	77.90%	○	○	-
36.生徒の意見が学校での意思決定に反映される雰囲気がある	68.80%	87.40%	86.60%	-0.8pt	-	-	-	79.70%	79.40%	84.40%	○	-	-	77.10%	78.10%	79.30%	○	○	-
【社会性に関わる学習環境】	54.60%	71.70%	77.30%	5.6pt	○	○	-	58.80%	58.80%	62.90%	○	○	-	63.00%	60.80%	62.50%	○	○	-
19.地域から大切にされている雰囲気を感じる	72.60%	-	85.50%	-	-	-	-	72.00%	79.50%	85.50%	-	-	-	76.30%	81.10%	81.90%	○	-	-
25.地域の人や課題など、興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる	66.70%	84.60%	82.10%	-2.5pt	-	-	-	70.00%	76.60%	76.60%	○	○	-	73.10%	76.50%	78.10%	○	-	-
29.地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	44.60%	75.40%	77.70%	2.3pt	○	-	-	48.60%	50.90%	56.80%	○	○	-	55.30%	54.20%	56.00%	○	○	-
32.自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある	40.30%	67.40%	76.00%	8.6pt	○	○	-	49.20%	49.80%	56.90%	○	○	-	55.30%	53.80%	54.60%	○	○	-
34.地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	48.90%	59.40%	65.40%	6.0pt	○	○	-	54.40%	53.80%	54.90%	○	○	-	55.00%	52.70%	54.00%	○	○	-

【R6- 1 学年結果】

R6年度 高校魅力化評価アンケート結果

	全校			全校内での前年度比較				県平均			県との比較			全国平均			全国との比較		
	R4	R5	R6					R4	R5	R6				R4	R5	R6			
	186人	175人	179人	-	R5<R6	5p以上 向上	5p以上 down	951人	1329人	636人	県 ＜本校	5p以上 向上	5p以上 down	36905人	42229人	31649人	全国＜ 本校	5p以上 向上	5p以上 down
	110項目中の○の数				45/110	12/110	18/110	110項目中の○の数			89/110	59/110	2/110	110項目中の○の数			86/110	54/110	4/110
【主体性に関わる自己認識】	64.30%	72.90%	70.70%	-2.2pt	-	-	-	64.60%	67.70%	63.50%	○	○	-	67.70%	66.90%	66.30%	○	-	-
51.自分にはよいところがあると思う	71.50%	80.60%	78.20%	-2.4pt	-	-	-	73.60%	80.20%	75.60%	○	-	-	74.90%	77.70%	78.30%	-	-	-
52.私は、自分自身に満足している	52.20%	56.00%	63.10%	7.1pt	○	○	-	51.10%	57.70%	54.90%	○	○	-	53.80%	53.80%	54.80%	○	○	-
39.現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	62.40%	63.40%	67.60%	4.2pt	○	-	-	70.30%	69.60%	64.30%	○	-	-	72.80%	71.80%	69.80%	-	-	-
40.目標を設定し、確実に行動することができる	62.90%	76.00%	68.20%	-7.8pt	-	-	▼	57.10%	59.30%	54.10%	○	○	-	60.20%	58.50%	57.20%	○	○	-
53.自分で計画を立てて活動することができる	57.00%	-	62.00%	-	-	-	-	58.10%	56.80%	54.30%	○	○	-	61.40%	58.50%	57.10%	○	-	-
37.うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む	77.40%	84.00%	79.30%	-4.7pt	-	-	-	74.70%	77.50%	73.10%	○	○	-	79.10%	76.90%	75.50%	○	-	-
47.忍耐強く物事に取り組むことができる	66.70%	77.10%	76.50%	-0.6pt	-	-	-	67.50%	69.10%	64.20%	○	○	-	71.90%	67.90%	66.90%	○	○	-
【協働性に関わる自己認識】	71.50%	83.40%	78.10%	-5.3pt	-	-	▼	74.50%	77.10%	75.30%	○	-	-	76.30%	77.50%	77.20%	○	-	-
43.自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	93.00%	94.90%	93.30%	-1.6pt	-	-	-	92.70%	93.00%	91.70%	○	-	-	93.50%	93.40%	93.10%	○	-	-
42.相手の意見を丁寧に聞くことができる	89.20%	90.30%	90.50%	0.2pt	○	-	-	88.70%	88.00%	87.40%	○	-	-	90.30%	89.10%	88.30%	○	-	-
49.自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	61.80%	72.00%	70.40%	-1.6pt	-	-	-	67.90%	69.90%	68.60%	○	-	-	69.40%	69.90%	69.00%	○	-	-
50.友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	51.10%	-	60.30%	-	-	-	-	55.30%	58.40%	54.60%	○	○	-	57.10%	57.70%	57.80%	○	-	-
44.共同作業だと、自分の力が発揮できる	62.40%	76.60%	76.00%	-0.6pt	-	-	-	67.90%	69.80%	65.40%	○	○	-	71.10%	69.80%	68.90%	○	○	-
【探究性に関わる自己認識】	59.50%	72.90%	66.60%	-6.3pt	-	-	▼	67.20%	68.40%	62.70%	○	-	-	69.80%	68.50%	67.60%	-	-	-
38.家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	51.10%	54.30%	42.50%	-11.8pt	-	-	▼	63.30%	61.10%	49.20%	-	-	▼	69.40%	65.30%	63.60%	-	-	▼
61.地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる	45.20%	82.90%	66.50%	-16.4pt	-	-	▼	45.10%	51.20%	44.30%	○	○	-	53.40%	51.90%	53.20%	○	○	-
67.学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている	70.40%	85.10%	79.30%	-5.8pt	-	-	▼	81.60%	80.60%	78.00%	○	-	-	81.50%	81.70%	81.80%	-	-	-
45.情報を、勉強したことや知っていることと関連づけて理解することができる	68.30%	78.90%	76.50%	-2.4pt	-	-	-	79.40%	83.50%	78.80%	-	-	-	81.70%	82.10%	80.80%	-	-	-
46.勉強したものを実際に応用してみる	55.40%	72.60%	70.90%	-1.7pt	-	-	-	66.40%	68.80%	62.90%	○	○	-	68.10%	67.10%	65.50%	○	○	-
41.複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	39.80%	47.40%	48.00%	0.6pt	○	-	-	50.30%	47.10%	41.70%	○	○	-	49.50%	46.50%	44.30%	○	-	-
54.一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	76.90%	85.70%	79.30%	-6.4pt	-	-	▼	78.20%	80.30%	76.90%	○	-	-	79.50%	79.50%	78.80%	○	-	-
48.自分を客観的に理解することができる	68.80%	76.60%	69.80%	-6.8pt	-	-	▼	73.10%	74.70%	69.80%	-	-	-	74.90%	73.90%	73.00%	-	-	-
【社会性に関わる自己認識】	61.50%	65.00%	67.10%	2.1pt	○	-	-	64.30%	63.90%	59.90%	○	○	-	65.10%	61.40%	59.60%	○	○	-
65.将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	39.80%	43.40%	46.90%	3.5pt	○	-	-	49.00%	43.90%	36.30%	○	○	-	49.00%	42.20%	38.40%	○	○	-
56.地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい	60.80%	65.70%	64.80%	-0.9pt	-	-	-	62.70%	59.80%	54.20%	○	○	-	64.90%	59.50%	57.10%	○	○	-
58.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	75.80%	76.00%	77.70%	1.7pt	○	-	-	68.00%	69.80%	66.80%	○	○	-	68.90%	67.30%	66.80%	○	○	-
57.私に関わることで、変えてほしい社会状況が少し変えられるかもしれない	41.90%	48.60%	50.80%	2.2pt	○	-	-	51.20%	51.90%	44.70%	○	○	-	53.30%	48.20%	44.00%	○	○	-
62.地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある	66.10%	74.30%	74.90%	0.6pt	○	-	-	71.10%	71.00%	66.50%	○	○	-	72.60%	69.80%	67.30%	○	○	-
55.18歳選挙権を取得したら、選挙に行くとと思う	75.80%	73.70%	76.00%	2.3pt	○	-	-	83.80%	82.80%	76.10%	-	-	-	83.80%	81.00%	77.20%	-	-	-
59.地域で起きている課題と世界で起きている課題は、お互いに関連しあっていると感じる	70.40%	-	74.90%	-	-	-	-	72.00%	81.00%	77.30%	-	-	-	72.10%	71.70%	69.30%	○	○	-
64.将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	63.40%	70.30%	73.70%	3.4pt	○	-	-	70.20%	72.50%	70.60%	○	-	-	72.70%	73.80%	73.40%	○	-	-
63.将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	56.50%	56.60%	58.10%	1.5pt	○	-	-	49.20%	47.60%	49.50%	○	○	-	46.40%	40.90%	42.00%	○	○	-
60.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	52.70%	64.60%	62.00%	-2.6pt	-	-	-	56.90%	58.00%	51.70%	○	○	-	59.30%	56.20%	54.70%	○	○	-
68.自分の将来について明るい希望を持っている	73.70%	76.60%	78.20%	1.6pt	○	-	-	72.70%	74.20%	69.80%	○	○	-	73.20%	72.10%	72.30%	○	○	-
【主体性に関わる行動】	61.60%	72.90%	66.80%	-6.1pt	-	-	▼	68.70%	66.50%	61.90%	○	-	-	70.60%	68.20%	68.00%	-	-	-
71.授業で分からないことについて、自分から質問したり、分かる人に聞きにいったりした	76.90%	86.30%	78.20%	-8.1pt	-	-	▼	79.50%	77.60%	73.10%	○	○	-	80.10%	79.40%	79.50%	-	-	-
74.授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	46.20%	59.40%	55.30%	-4.1pt	-	-	-	57.90%	55.40%	50.60%	○	-	-	61.10%	56.90%	56.50%	-	-	-
【協働性に関わる行動】	64.00%	79.40%	74.90%	-4.5pt	-	-	-	71.60%	72.60%	66.80%	○	○	-	73.40%	72.10%	71.90%	○	-	-
72.自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	58.10%	80.00%	74.90%	-5.1pt	-	-	▼	69.00%	72.00%	66.50%	○	○	-	72.00%	71.30%	71.20%	○	-	-
73.友人などから、意見やアドバイスを求められた	69.90%	78.90%	74.90%	-4.0pt	-	-	-	74.20%	73.10%	67.10%	○	○	-	74.90%	72.90%	72.70%	○	-	-

【R6- 1 学年結果】

R6年度 高校魅力化評価アンケート結果

	全校			全校内での前年度比較				県平均			県との比較			全国平均			全国との比較		
	R4	R5	R6					R4	R5	R6				R4	R5	R6			
	回答者数	186人	175人	179人	-	R5<R6	5p以上 向上	5p以上 down	951人	1329人	636人	県 <本校	5p以上 向上	5p以上 down	36905人	42229人	31649人	全国< 本校	5p以上 向上
	110項目中の○の数				45/110	12/110	18/110	110項目中の○の数			89/110	59/110	2/110	110項目中の○の数			86/110	54/110	4/110
【探究性に関わる行動】	54.60%	62.90%	54.70%	-8.2pt	-	-	▼	67.80%	64.70%	52.10%	○	-	-	68.70%	65.50%	64.20%	-	-	▼
75.授業の内容について、「なぜそうなのか」と疑問を持って、自分で考えたり調べたりした	53.20%	65.10%	57.00%	-8.1pt	-	-	▼	70.30%	66.20%	54.90%	○	-	-	70.60%	66.40%	65.40%	-	-	▼
76.公式やきまりを習う時、その根拠を理解するように、自分で考えたり調べたりした	55.90%	60.60%	52.50%	-8.1pt	-	-	▼	65.20%	63.10%	49.40%	○	-	-	66.70%	64.70%	62.90%	-	-	▼
【社会性に関わる行動】	38.90%	30.60%	46.60%	16.0pt	○	○	-	37.00%	31.20%	31.30%	○	○	-	41.20%	33.90%	35.20%	○	○	-
69.いま住んでいる地域の行事に参加した	33.30%	47.40%	44.70%	-2.7pt	-	-	-	34.40%	39.70%	34.70%	○	○	-	35.70%	39.00%	38.80%	○	○	-
70.地域社会などでボランティア活動に参加した	21.00%	13.70%	25.70%	12.0pt	○	○	-	23.20%	16.80%	17.10%	○	○	-	29.60%	22.00%	23.30%	○	-	-
77.先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした	62.40%	-	69.30%	-	-	-	-	53.30%	60.40%	69.30%	-	-	-	58.30%	60.00%	61.00%	○	○	-
【学習・その他】	52.20%	84.60%	64.70%	-19.9pt	-	-	▼	64.90%	74.00%	68.30%	-	-	-	64.20%	70.00%	67.10%	-	-	-
90.この学校を中学生にすすめてできる	57.50%	84.60%	91.10%	6.5pt	○	○	-	78.50%	80.70%	85.50%	○	○	-	83.10%	83.40%	84.60%	○	○	-
78.国際社会の課題解決に貢献したい	57.00%	-	54.20%	-	-	-	-	62.00%	72.90%	60.20%	-	-	▼	62.80%	61.10%	54.40%	-	-	-
79.まだ世の中にない新しい技術やサービスを生み出してみたい	53.20%	-	58.70%	-	-	-	-	63.00%	71.80%	58.70%	-	-	-	58.10%	56.80%	52.90%	○	○	-
80.客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることができる	40.90%	-	54.70%	-	-	-	-	55.90%	59.90%	55.70%	-	-	-	52.90%	51.20%	48.70%	○	○	-
【主体性に関わるウェルビーイング】	40.70%	61.70%	64.40%	2.7pt	○	-	-	54.30%	65.70%	62.40%	○	-	-	56.80%	64.30%	64.50%	-	-	-
81.今の生活全般の満足度	32.80%	65.10%	67.00%	1.9pt	○	-	-	54.80%	69.60%	66.70%	○	-	-	58.00%	69.10%	69.80%	-	-	-
82.普段のあなたの幸福度	34.40%	66.30%	70.40%	4.1pt	○	-	-	56.30%	71.90%	68.60%	○	-	-	59.00%	71.00%	71.60%	-	-	-
83.現在の日常生活に不安や心配事がない	54.80%	53.70%	55.90%	2.2pt	○	-	-	51.70%	55.50%	52.00%	○	-	-	53.40%	52.70%	52.20%	○	-	-
【協働性に関わるウェルビーイング】	78.10%	86.70%	89.60%	2.9pt	○	-	-	82.00%	85.00%	85.00%	○	-	-	84.30%	85.20%	85.70%	○	-	-
66.この学校に入ってよかったと思う	66.70%	86.30%	91.60%	5.3pt	○	○	-	84.80%	88.20%	91.70%	-	-	-	87.90%	88.80%	89.40%	○	-	-
84.学校の一員だと感じている	86.60%	92.60%	91.10%	-1.5pt	-	-	-	84.40%	88.30%	86.90%	○	-	-	85.90%	87.40%	88.00%	○	-	-
85.大切な人を幸せにしたり、楽しませたりしていると思う	81.20%	81.10%	86.00%	4.9pt	○	-	-	76.90%	78.60%	76.40%	○	○	-	79.00%	79.50%	79.70%	○	○	-
【探究性に関わるウェルビーイング】	72.00%	78.90%	79.00%	0.1pt	○	-	-	72.70%	73.80%	70.30%	○	○	-	73.20%	72.60%	72.80%	○	○	-
68.自分の将来について明るい希望を持っている	73.70%	76.60%	78.20%	1.6pt	○	-	-	72.70%	74.20%	69.80%	○	○	-	73.20%	72.10%	72.30%	○	○	-
86.自分の将来についての見通し（将来こういう風でありたい）を持っている	73.10%	80.00%	78.20%	-1.8pt	-	-	-	74.20%	75.70%	72.20%	○	○	-	74.40%	74.20%	74.70%	○	-	-
87.自分の将来に向けて大切だと思うことを実行している	69.40%	80.00%	80.40%	0.4pt	○	-	-	71.10%	71.60%	68.90%	○	○	-	71.90%	71.50%	71.20%	○	○	-
【社会性に関わるウェルビーイング】	63.40%	69.10%	70.90%	1.8pt	○	-	-	61.60%	63.10%	59.60%	○	○	-	61.10%	58.60%	59.30%	○	○	-
58.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	75.80%	76.00%	77.70%	1.7pt	○	-	-	68.00%	69.80%	66.80%	○	○	-	68.90%	67.30%	66.80%	○	○	-
60.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	52.70%	64.60%	62.00%	-2.6pt	-	-	-	56.90%	58.00%	51.70%	○	○	-	59.30%	56.20%	54.70%	○	○	-
88.この地域を、将来暮らす場所としてすすめてできる	74.70%	82.30%	80.40%	-1.9pt	-	-	-	77.50%	79.30%	75.00%	○	○	-	69.50%	69.00%	69.90%	○	○	-
89.日本の将来は明るいと思う	50.50%	53.70%	63.70%	10.0pt	○	○	-	43.80%	45.40%	45.00%	○	○	-	46.80%	41.80%	45.70%	○	○	-
平均的な学習時間（授業時間以外）	-	00:50	00:34	-	-	-	-	-	01:02	00:56			-	-	01:18	01:05			-
休日	-	01:11	00:58	-	-	-	-	-	01:49	01:29			-	-	02:15	01:47			-